

Beyond Limits. Unlock Our Potential.
世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成計画
- Sendai Startup Ecosystem Acceleration Plan -



仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会

仙台・東北で暮らす人々が豊かさを実感できる未来の実現を目指して
SENDAI - Capital of Social Innovation -

WHY SENDAI × STARTUP?

「千年に一度」の瞬間を経験し、
深い喪失と悲しみに覆われた東北。

幸せとは。豊かさとは。生きる、とは。
震災後、地域が抱えていた課題が加速して顕わになる中で、
東北の中心都市・仙台には、そんな問いに真正面から悩み、
自らの手で社会を変えようとする人が集まるようになった。

ここには、挑戦できる土壌をつくる人がいる。
「東北を、挑戦者たちの理想郷にする」
「社会課題の解決に取り組む人が、ビジネスとして活動を継続できる支援を」

志ある起業家が集まる「場」を開いた人がいる。
「世の中にインパクトを与える起業家を育てるコミュニティに」
「『何かやってみたい』と思う熱量の高い人が、その一歩を踏み出せる場所を」

未来への種を蒔く人がいる。
「背中を押してあげる機会をつくること、大人の役目」
「起業家精神を育て、起業家がまた新たな起業家を育てるエコシステムをつくる」

社会をよりよく変えようとする起業家がいます。
「諦めていた人が希望を取り戻して生きられる商品を」
「誰もが自分らしく働ける社会を実現するサービスを」
「研究を、地球の環境問題の解決のために製品化する」

東日本大震災の400年前に発生した、慶長大津波。
その直後に仙台藩祖伊達政宗は造船を命じて外交使節団を組織し、
復興のさなか、船はヨーロッパを目指して大航海に乗り出した。

痛みを経験したこの地域からは、世界を変える起業家が生まれる。
「千年に一度の震災は、千年に一度の変化を仙台に生み出した」

変革の渦は、仙台から始まる。



ようこそ！
「ソーシャルイノベーターの聖地・仙台」へ
仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会
会長 郡 和子（仙台市長）

私たち「仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会」が目指す未来は、仙台・東北から国内外の様々な課題を解決しながら、事業性と社会性を両立し、世界に挑戦するようなスタートアップが次々に生まれるまちをつくることです。課題先進地と呼ばれる東北が抱える様々な課題、そしてこの地域が持つ豊かな地域資源を組み合わせ、経済合理性の高い事業を興し、地域を活性化する。そして、仙台や東北の地域経済を活性化することだけではなく、社会の課題を解決することで、仙台・東北に暮らす人々がこれからも豊かに暮らせる未来を目指します。

仙台・東北でのスタートアップ・エコシステムは、2011年の東日本大震災をきっかけとして、一気に走り出しました。千年に一度といわれた東日本大震災では、「地域のため」「社会のため」という思いを持って社会課題の解決を起業によって図ろうとする人々の姿がありました。震災がもたらしたこうした動きを大きく育てるため、2013年に「日本一起業しやすいまち」を宣言し、仙台市起業支援センターや地方最大級の起業イベント「SENDAI for Startups!」がスタートしました。2015年には地方創生特区「ソーシャル・イノベーション創生特区」と近未来技術実証特区に指定され、2017年度には東北全域を対象とした国内初の広域アクセラレーションプログラムがスタート、さらに東北大学や経済界の皆さんが中心となりスタートアップ支援を加速させるための様々な支援施策を整えてきました。

仙台市の都心部をスタートアップの拠点とし集積を加速させるため「せんだい都心再構築プロジェクト」が始動し、複数のプロジェクトが動き出しています。東北大学青葉山キャンパス内に建設される世界初の産業利用を目的とした「次世代放射光施設」とその周辺に形成される「サイエンスパーク」も造成工事が進んでおり、イノベーション創出の拠点として最先端の技術を活用したスタートアップを輩出します。2005年から交流を深めてきたフィンランド共和国オウル市との国際産業振興協定をさらに発展させ、スタートアップ支援をテーマにイベントやプログラムでの連携をさらに強化し、東北から世界へ挑戦できる環境をつくります。

仙台スタートアップ・エコシステム推進計画は、“絵に描いた餅”ではありません。学生や若者、女性など多様なスタートアップ・エコシステムの主役が集まり始め、目に見え、手で触れられるものになってきました。仙台のスタートアップ・エコシステムは開花寸前です。いくつもの都市でスタートアップ・エコシステムの取り組みを進めていますが、仙台市の圧倒的な強みは、社会や地域の課題を解決するという社会性とビジネスとしての事業性を両立しようとするマインド、大学等が持つ最先端の技術や研究シーズの集積、同様の課題を抱える地域に展開していくことができる東北6県や国内外とのネットワークがあることです。民間と大学、行政が連携して、この動きを着実に積み上げていけば、仙台・東北からいくつもの世界を変えるスタートアップが生まれ、世界中からソーシャルイノベーターが集う都市へと成長することは間違いありません。スタートアップと産学官金皆さんの力で、仙台・東北に暮らす人たちはもちろんですが、世界中の人たちが豊かさを実感できる未来を仙台から一緒につくっていきましょう。

スタートアップのチャレンジを産学官金が一体となって後押し



一般社団法人東北経済連合会
会長 海輪 誠 氏

「私たちの使命は付加価値のある産業を東北及び新潟に生み出していくこと。地場産業の成長促進に向け、さらに協議会を通じて連携を強化していく。2020年は東日本大震災から10年目になる。スタートアップ・エコシステム拠点都市がそのはずみになると確信している。」

▶東経連新ビジョン2030『わきたつ東北』



東北大学
総長 大野 英男 氏

「卓越した学術研究を通してイノベーションを創出、社会とともにある大学として多様なセクターとのパートナーシップのもと新たな社会価値を創造・未来を拓く変革を先導し、2030年までに東北大学発ベンチャーの100社創出を目指します。協議会では関係者と力を合わせて国内有数のエコシステムを形成し、課題に立ち向かう人材、特に若者が生き生きと活躍できる地域を実現したい。」

▶東北大学ビジョン2030『最先端の創造、大変革への挑戦』



株式会社七十七銀行
取締役頭取 小林 英文 氏

「地域の産業育成は銀行の使命。地域に根ざす金融機関として、地域経済を牽引し、新たな雇用を生み出す力強い企業を創出していきたい。資金面はもとより、銀行の持つ様々な機能やネットワークを駆使しながら、起業家のチャレンジを強力に後押ししていく。」

▶中期経営計画『For The Customer & For The Future』

エコシステム形成の目標

仙台・東北から世界を変えるスタートアップが生まれ、世界中からソーシャルイノベーターが集う都市へ SENDAI : Capital of Social Innovation

仙台・東北地域では、東日本大震災を契機として、社会課題解決を志向する起業家が増加
仙台市の新規開業率は政令市中第2位※となり、起業のすそ野は拡大
さらに、産学官金の集積を活かし、仙台・東北のスタートアップ・エコシステムを発展させ、
課題先進地・東北から、大学の研究成果・技術シーズを活用し
国内外の課題解決に資するスタートアップを創出し、
仙台・東北に暮らす人たちだけではなく、
世界中の人たちが豊かさを実感し、幸せに暮らせるような未来に貢献する

※出典：経済センサス基礎調査（総務省）・経済センサス活動調査（総務省・経済産業省） 2014年から2016年平均

KPI（2020年度～2024年度）

300+

スタートアップ
創出（累計）

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画団体の支援を通じて大学等の研究成果や技術シーズを活用し、社会課題の解決を目指すスタートアップを300社以上輩出・育成する。

400+

地域企業との
協業（累計）

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画団体の支援を通じて地域の大企業や中小企業とスタートアップの協業を400件以上実現する。

50億+

資金調達額
(2024年)

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画団体が支援を行ったスタートアップの資金調達額の合計額が2024年単年で50億円以上となる。

100+

グローバル
(累計)

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画団体が支援を行うスタートアップが海外のスタートアップイベント出展等を通じて海外企業や自治体等との協業を100件以上実現する。

1+

ユニコーン創出
(2024年)

仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会参画団体が支援を行ったスタートアップのうち時価総額が2024年時点で1,250億円以上となるユニコーン企業を創出する。

50+

スタートアップ
ビザ（累計）

外国人創業・起業活動促進事業（スタートアップ・ビザ）を活用し、仙台・東北での起業を希望する外国人に対して支援を行い50名以上の起業を支援する。

課題先進地・東北から、大学の研究成果・技術シーズを活用し
国内外の課題解決に資するスタートアップを創出

産

学



GOOD GROWTH

ソーシャル・イノベーションの実現

東北に根付き、強い共感を集め、世界市場への貫通力を期待できる唯一性の高い企業

世界中の人たちが健康で幸せに暮らせるような未来に貢献



事業拡大



事業化

アイデア実証



スタートアップの源泉



東北大学等の世界最先端の
研究成果・技術シーズ

官

人材流動化センター

兼業・副業促進

CXO人材

アドバイザリーボード

マッチングイベント

ベンチャーキャピタル

資本政策

ハンズオン支援

専門コンサルティング

エンジェル投資家

ギャップファンド

次世代放射光施設

東北メディカルメガバンク
ジャパンバイオデザイン
災害科学国際研究所
金属材料研究所
IIS研究センター 等

シーズ発掘

TLO

知財活用

中小企業

イノベーション
人材育成

アイデアソン

ハッカソン

留学生

起業部

若手研究者育成

キャパシティ
ディベロップメント

アントレプレナー教育

地域に存在する具体的な課題
起業機運の高まり
社会起業家の増加
参加意欲の高い市民性
多様な実証フィールド 等

起業拠点

仙台都心再構築
プロジェクト

プロトタイプ開発支援

リビングラボ

国家戦略特区

スタートアップVISA

情報発信

国際連携

開発補助金

SBIR制度

起業イベント
デモデイ

ピッチコンテスト

OB・OGネットワーク

アクセラレーション
プログラム

スタートアップ誘致

支援ネットワーク構築

スーパーシティ

支援人材育成

IPO支援
プログラム

オープンイノベーション

販路開拓支援

国際的起業イベント出展

課題先進地・東北から、大学の研究成果・技術シーズを活用し
国内外の課題解決に資するスタートアップを創出

産

学



GOOD GROWTH

ソーシャル・イノベーションの実現

東北に根付き、強い共感を集め、世界市場への貫通力を期待できる唯一性の高い企業

世界中の人たちが
健康で幸せに暮らせるような未来に貢献



事業拡大



事業化

アイデア実証



スタートアップの源泉



大学との連携による
SDGs×DeepTechアクセラ
レーターの実施

スタートアップ・エコシ
テム拠点都市指定による国
内外への情報発信強化・起
業人材誘致

海外の先進都市との連携強
化によるエコシステムの強
化・海外展開支援

エコシステムの強化に向けた
更なる広域連携の促進
支援人材・スタートアップの
コミュニティ強化

東北大学等の世界最先端の
研究成果・技術シーズ

首都圏人材の流動化促進
スタートアップとのマッ
チング機会の拡充

経済団体・公認会計士協会等と
連携したCXO人材の発掘・育成

国内外のベンチャーキャピタル
とのパートナーシップ強化

東北6県・新潟を対象とした
ファンド組成・アクセラレー
ションプログラムの実施

次世代放射光施設・大学の
知を活用した地域の中小企
業のチャレンジのさらなる
促進

次世代放射光施設

専門コン

ハンズオン支援

員本政策

東北メディカルメガバンク
ジャパンバイオデザイン
災害科学国際研究所
金属材料研究所
IIS研究センター 等

起業イ
デモ

ピッチ

エコシステムの中核となる
大規模研究開発・スタート
アップ支援拠点整備

仙台
プロ

SRIR制度

OGネットワーク

販路開拓支援

国際的起業イベント出展

アクセラレーション
プログラム

プロトタイプ
開発支援

トライアル発注

スタートアップ誘致

ネットワーク構築

人材育成

情報発信

国際連携

起業機運の高まり
社会起業家の増加
参加意欲の高い市民性
多様な実証フィールド 等

アントレプレナー教育

キャパシテ
ディベロップメ

若手研究

起業部

官

産学官金の連携をさらに強化し、スタートアップ・エコシステムを発展させるため 仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を設立

・変化が激しい時代に、地域経済を持続的に発展させていくためには、課題解決と経済成長を両立しながら、新たなビジネスモデルの構築やイノベーションの創出により新たな市場の開拓を目指す**スタートアップ企業のチャレンジ**を産学官金が一体となって後押ししていくことが不可欠。

・仙台・東北のスタートアップ・エコシステムの発展のためには、産学官金がそれぞれ取り組んできたスタートアップ企業への支援施策を有機的に結合し、**スタートアップ企業と支援者の間で幅広い意見交換を行うオープンなプラットフォーム**を設け、**地域に不足する要素を明確化し、スタートアップ企業が成長していくためのハード面・ソフト面での基盤づくり**を行っていくことが必要。

・東北の中核都市としての産学官金の集積を活かし、**仙台・東北から国内外の様々な課題解決に資するスタートアップを連続的に生み出すエコシステムを発展させる**ことを目指す。

■仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会設立発起人

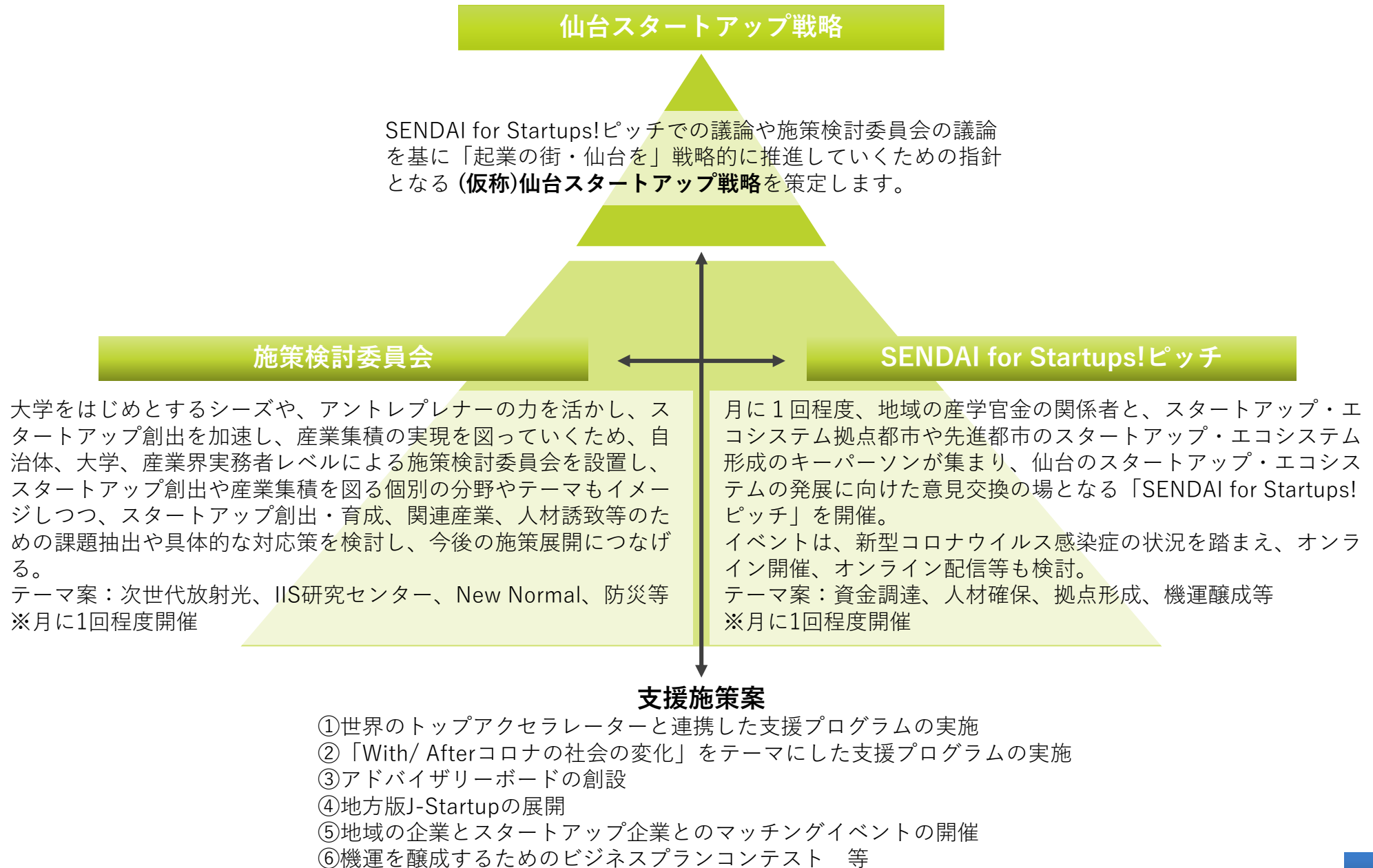
団体名	役職	職務	氏名
仙台市	市長	会長	郡 和子
国立大学法人 東北大学	総長	副会長	大野 英男
一般社団法人 東北経済連合会	会長	副会長	海輪 誠
仙台経済同友会	代表幹事	副会長	大山 健太郎
経済産業省 東北経済産業局	局長		相楽 希美
株式会社 七十七銀行	取締役頭取		小林 英文
公益財団法人 仙台市産業振興事業団	理事長		山本 和茂
仙台商工会議所	会頭		鎌田 宏
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 東北本部	本部長		杉村 均
宮城県	副知事		遠藤 信哉
一般社団法人 IMPACT Foundation Japan	代表理事		竹川 隆司
株式会社 MAKOTO	代表取締役		竹井 智宏

※敬称略・職務順・50音順・アルファベット順

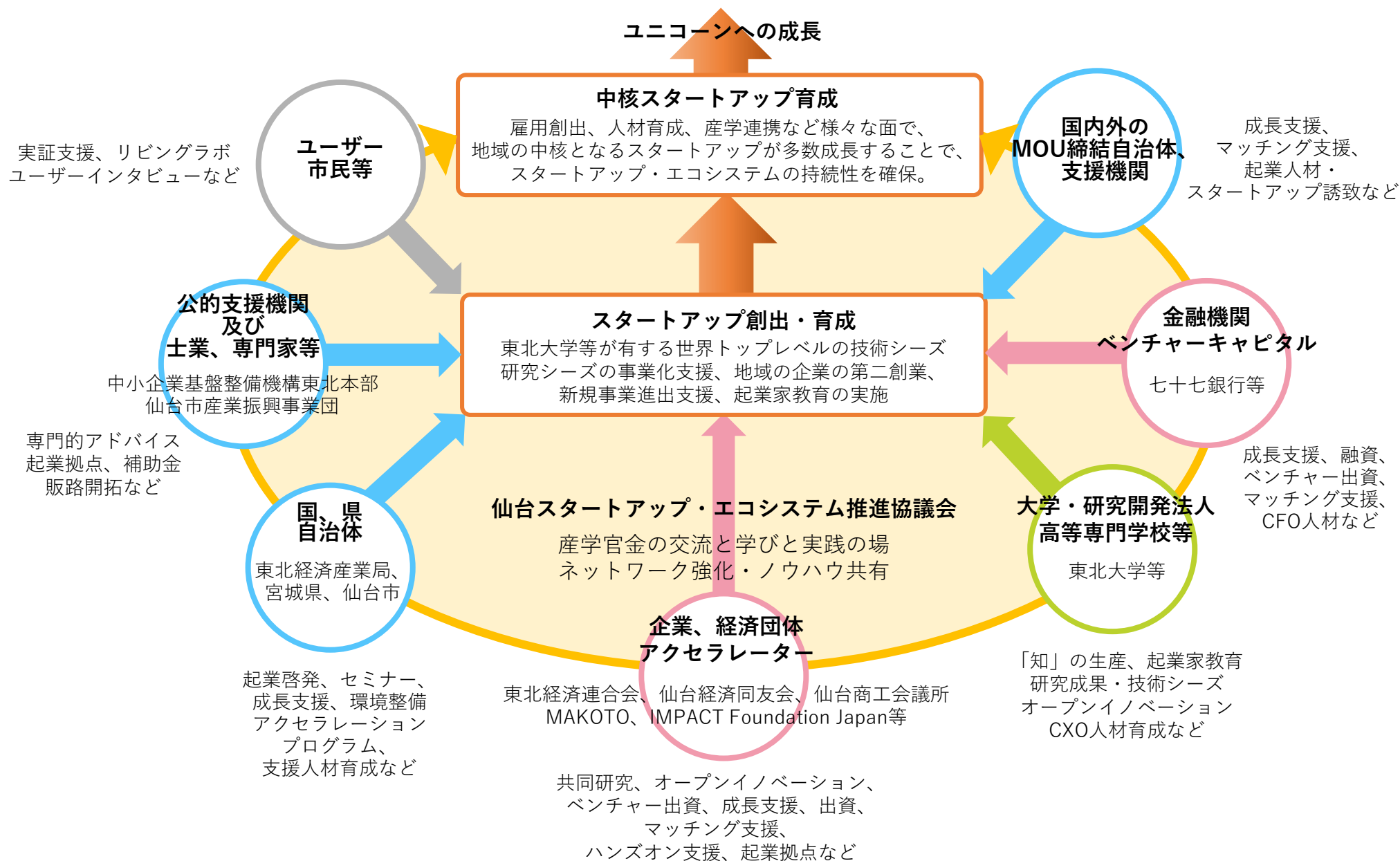
※会員については、今後趣旨に賛同いただける方、ディスカッションに招聘した方に参加していただき、増やしていく方向



仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会事業案



仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を中心に、多様なプレイヤーが緊密に連携し、スタートアップを支援





仙台市長 郡 和子 氏



一般社団法人東北経済連合会
会長 海輪 誠 氏



東北大学
総長 大野 英男 氏



株式会社七十七銀行
取締役頭取 小林 英文 氏



株式会社MAKOTO

代表取締役 竹井 智宏 氏

地方には東京の起業家が気づかないビジネスチャンスがある。東北から世界に通用するような事業を生み出し、「あの時の恩返しです」と世界の人に言えるようになりたい。弱きを守るために強い事業をつくる。東北をそんな挑戦者たちの理想郷にしたい。



一般社団法人IMPACT Foundation Japan

代表理事 竹川 隆司 氏

『課題』の中にチャンスあり、『危機感』あるところに起業家は生まれる。東日本大震災を経験した仙台・東北は、その両方を日本で最も満たしている地域であり、この地から社会を良くする、世界を良くする、そんな起業家を産み出し続けることができると確信している。



株式会社エンライズコーポレーション

代表取締役CEO 吾郷 克洋 氏

仙台・東北には地域愛のある優秀な若者が多い。地方では圧倒的に足りていないエンジニアを養成する場となり、専門性を与える形でその挑戦を応援する場にしたい。そして仙台や東北から、地域だけに終わらずに世界を目指す事業が生まれていけばと思っている。



仙台経済同友会 起業支援委員長

今野印刷株式会社 代表取締役 橋浦 隆一 氏

起業家はどうしても夢見がちになるが、私たちは経営者の視点から、夢の部分とそろばんの部分を兼ね揃えている起業家を生み出したいと考えている。起業家に対してビジネスに関する様々なアドバイスを行う存在になりたい。



Sendai Development Commission株式会社

代表取締役 本郷 紘一 氏

仙台という街を魅力的にするためには様々な人がチャレンジできる環境を作っていくことが必要。行政が街をつくるのではなく、街に住む人、そこで活動する人が街をつくる時代になってきている。仙台らしい起業の生態系を一緒に作っていききたい。



東日本電信電話株式会社

常務取締役 中村 浩 氏

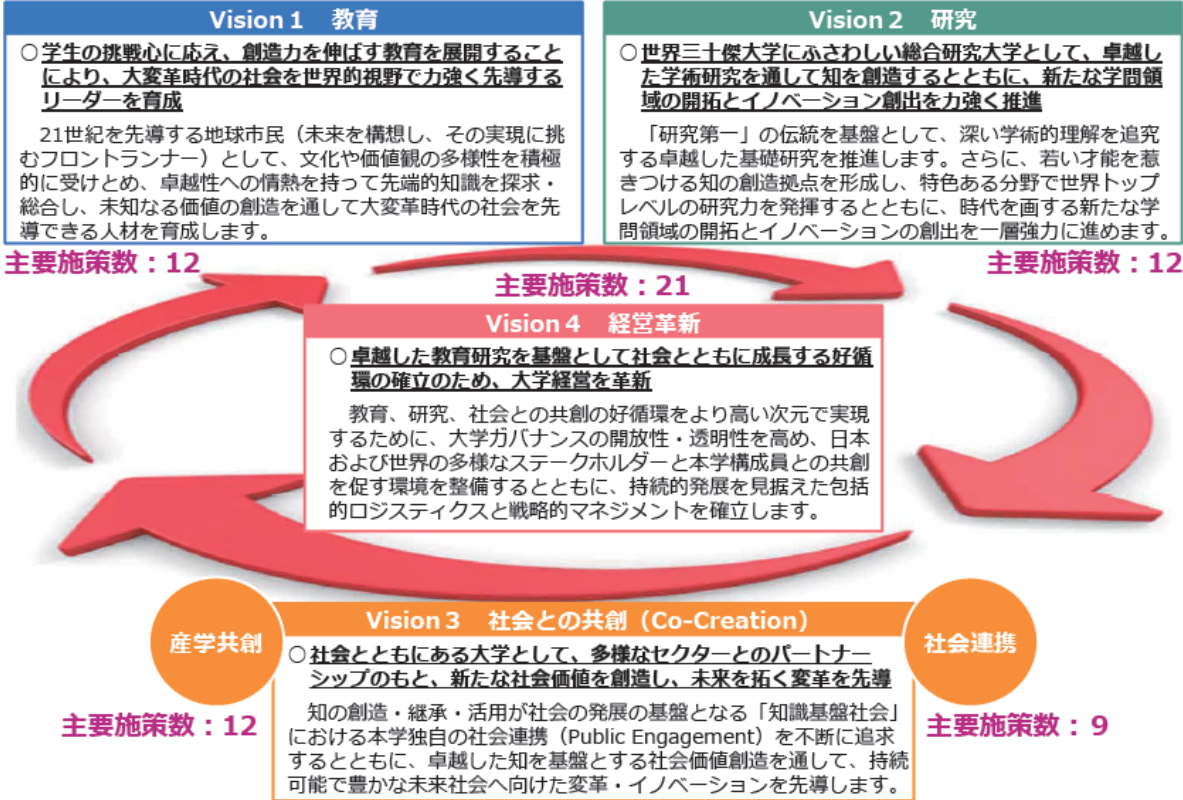
仙台は次世代放射光施設の設置を契機としてエコシステムの形成が加速していく。グループのアセットをフル活用し、新しいビジネスやサービスや製品につなげていくという仕掛けをつくりたい。そのような街づくりをNTTグループを挙げて仙台で取り組んでいきたいと考えている。



東北大学総長 大野 英男

東北大学から継続的にベンチャー企業を輩出するベンチャー・エコシステムを形成します

「最先端の創造、大変革への挑戦」を掲げた「東北大学ビジョン2030」では、東北大学の3つの伝統的な理念（「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」）を基盤として、大学経営の革新を図るとともに、仙台市民、産業界・経済界、自治体や国などの公的機関、同窓生を含む大学関係者など多様なセクターの連携により、「教育」、「研究」、「社会との共創」の好循環を実現することを目指します。変革に挑戦して本学の活動を飛躍的に発展させ、社会にそして世界に貢献していきましょう。



東北大学ビジョン2030

Vision3：社会との共創（Co-Creation）

重点戦略：

東北大学発ベンチャーの創出と次世代アントレプレナーの育成

主要施策：

- ・東北大学発ベンチャー創出の加速
- ・グローバルに通用するアントレプレナー（起業家）の育成・支援

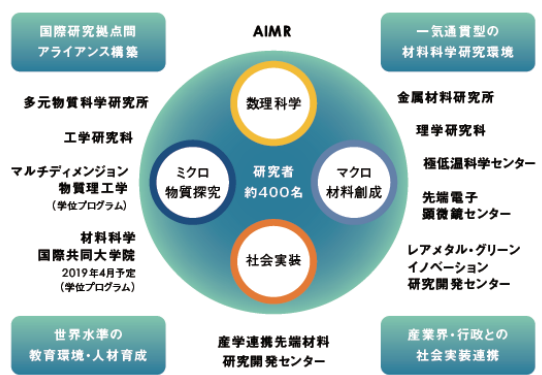
東北大学の世界トップレベルの研究成果・技術シーズを活用し国内外の課題解決に資するスタートアップを創出

4つの世界トップレベル研究拠点・9つの国際共同大学院プログラム

材料科学、スピントロニクス、未来型医療、災害科学、宇宙創成物理学、環境・地球科学、機械科学、データ科学、日本学

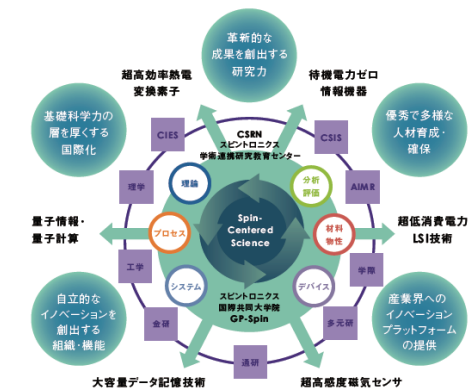
材料科学

- 本学が伝統的に強い学術分野
- 圧倒的な研究者層の厚み
- 異分野との融合研究を展開



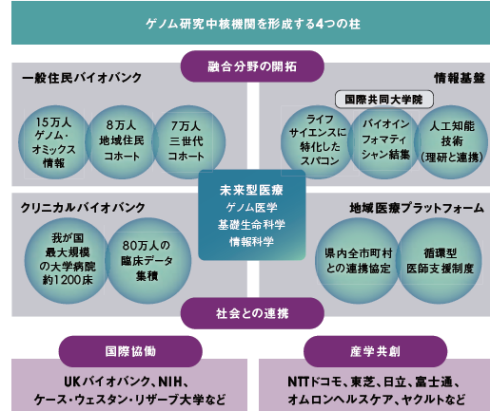
スピントロニクス

- 磁性半導体やスピン流などの基礎研究から応用研究まで
- 世界のパイオニアとして認知



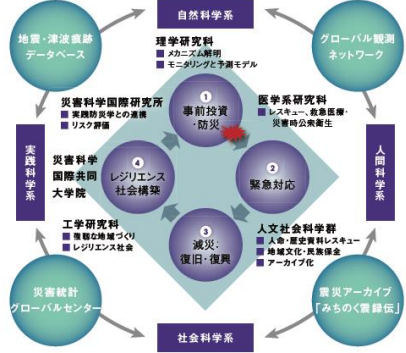
未来型医療

- 東北メディカル・メガバンク機構
- 世界有数の複合バイオバンク
- 情報科学との融合研究を推進



災害科学

- 災害科学国際研究所の創設
- 自然災害の膨大なデータを蓄積し世界の研究をリード



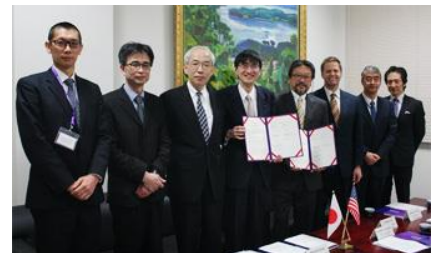
次世代放射光施設

日本初の次世代放射光施設
「軟X線」を使用し、物資の「機能」を様々な方法で可視化
世界中の科学者が物質の観測・測定に活用し
イノベーションエコシステムの構築へ



国内外の大学間ネットワーク

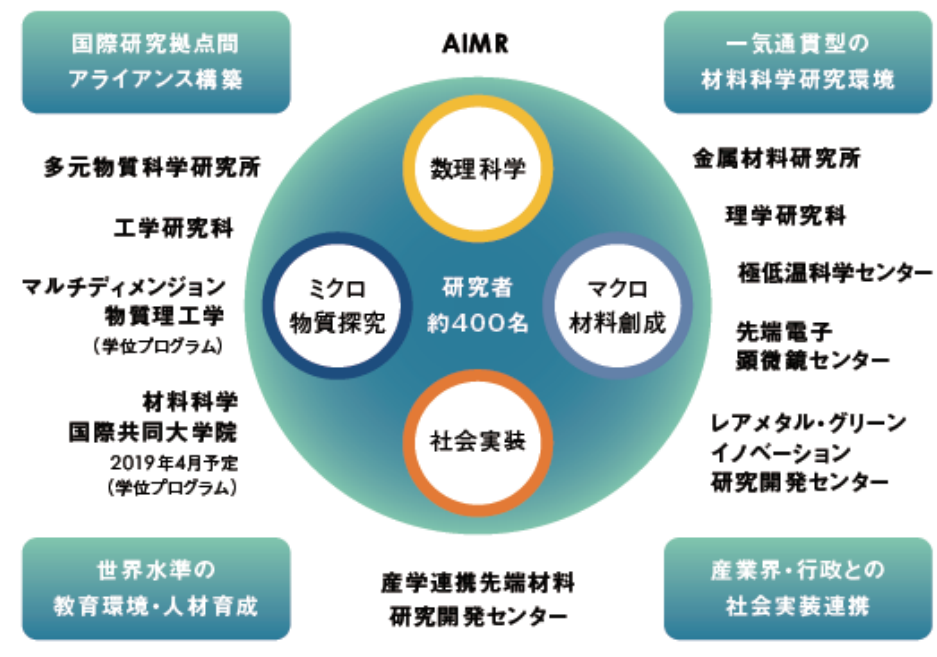
弘前大学、秋田大学、岩手大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、ワシントン大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL)、リヨン大学、シカゴ大学、ケースウェスタンリザーブ大学等国内外の大学等と幅広いネットワークを構築



スピントロニクス、未来型医療、材料科学、災害科学に加え、量子コンピューティング、人工知能 (AI) などの分野、さらには、次世代放射光施設を活用した戦略的オープンイノベーションを展開

材料科学

- 本学が伝統的に強い学術分野
- 圧倒的な研究者層の厚み
- 異分野との融合研究を展開



世界規模で重要性が高まりつつある
新たな研究課題への挑戦

- 高効率エネルギー変換・貯蔵材料 (機能性材料)
エネルギー自立型モデルシティプランを産学連携・地域協働で構築。
- 高信頼性社会インフラ形成材料 (構造材料)
安全で強靱な都市空間・地域環境に優しい輸送・産業機器を実現。

持続可能社会の実現に貢献するイノベーションの創出へ

革新材料創成センターを企業拠出 (十数億円) により2020年7月に設置

多様化する製品群、半導体・電子部品のニーズに応える材料開発
大手サプライチェーン企業群とともに、
大学発ベンチャーが入居し共同開発

第一弾 電極・配線材料イノベーションプロジェクト
「ポスト・ムーア時代のスーパーインターコネクト」

JX MC MATERIAL CONCEPT
大学発ベンチャー

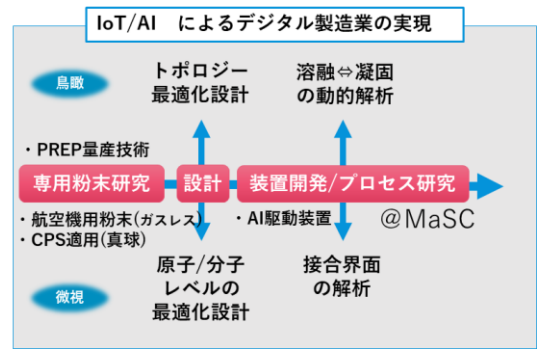
材料メーカー 装置メーカー 製品メーカー
素材メーカー 部品メーカー (電気自動車、LED、半導体デバイス)



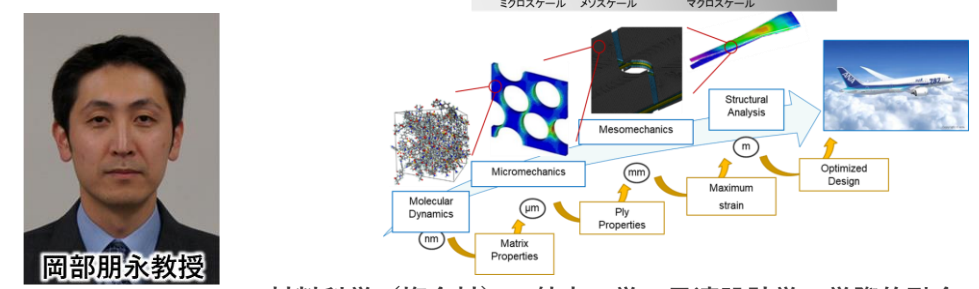
金属積層造形の包括的実用化研究

千葉晶彦教授

高純度で緻密な微細構造



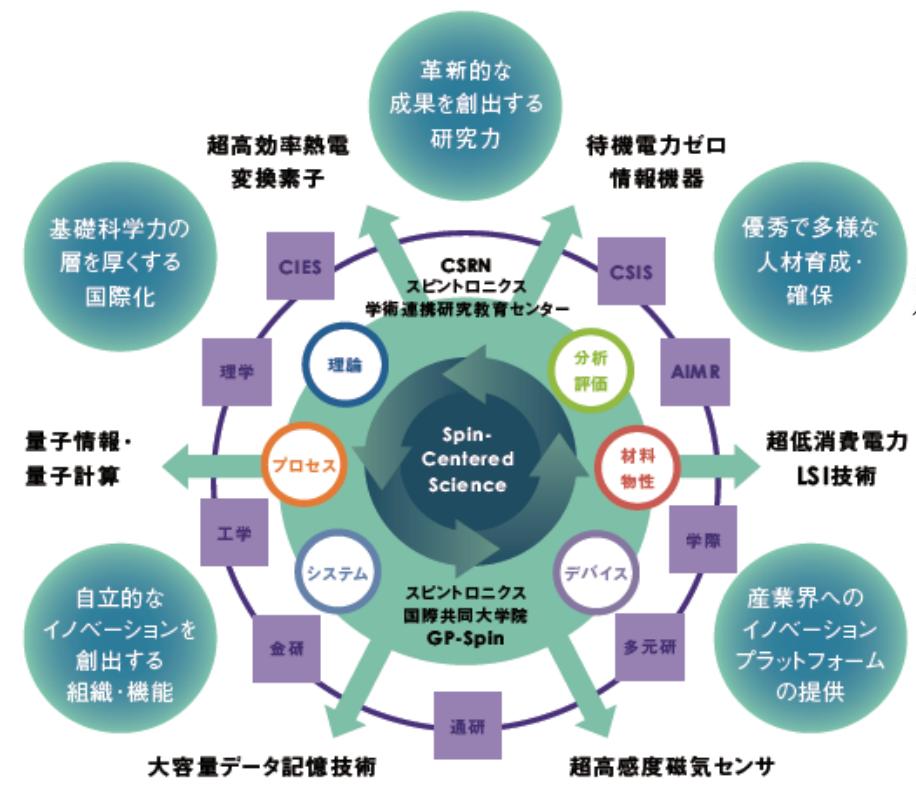
分子スケールからの航空機設計



材料科学 (複合材)、航空工学、最適設計学の学際的融合

スピントロニクス

- 磁性半導体やスピン流などの基礎研究から応用研究まで
- 世界のパイオニアとして認知



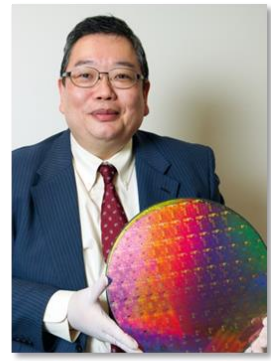
次世代のIoTを支える新たな基盤テクノロジーの創造へ

超低消費電力コンピュータ
超大容量データストレージ

超高感度センサ
超高効率熱電変換技術など

東北大学発ベンチャー『パワースピン』

従来の1/1,000の消費電力を達成する世界発のスピントロニクスAIチップの社会実装を目的に設立された東北大学発ベンチャー企業（メモリ・各種LSIの回路設計・試作、コンサルティング、ライセンス）



遠藤 哲郎 センター長
パワースピン(株)創業者・CTO



- 集積エレクトロニクス分野の川上から川下までの企業群による世界最大規模の産学コンソーシアムを構築
- グローバル対応の共同研究契約・知財管理
- 外国との共同研究費受入額 第1位（米国半導体関連企業との連携）

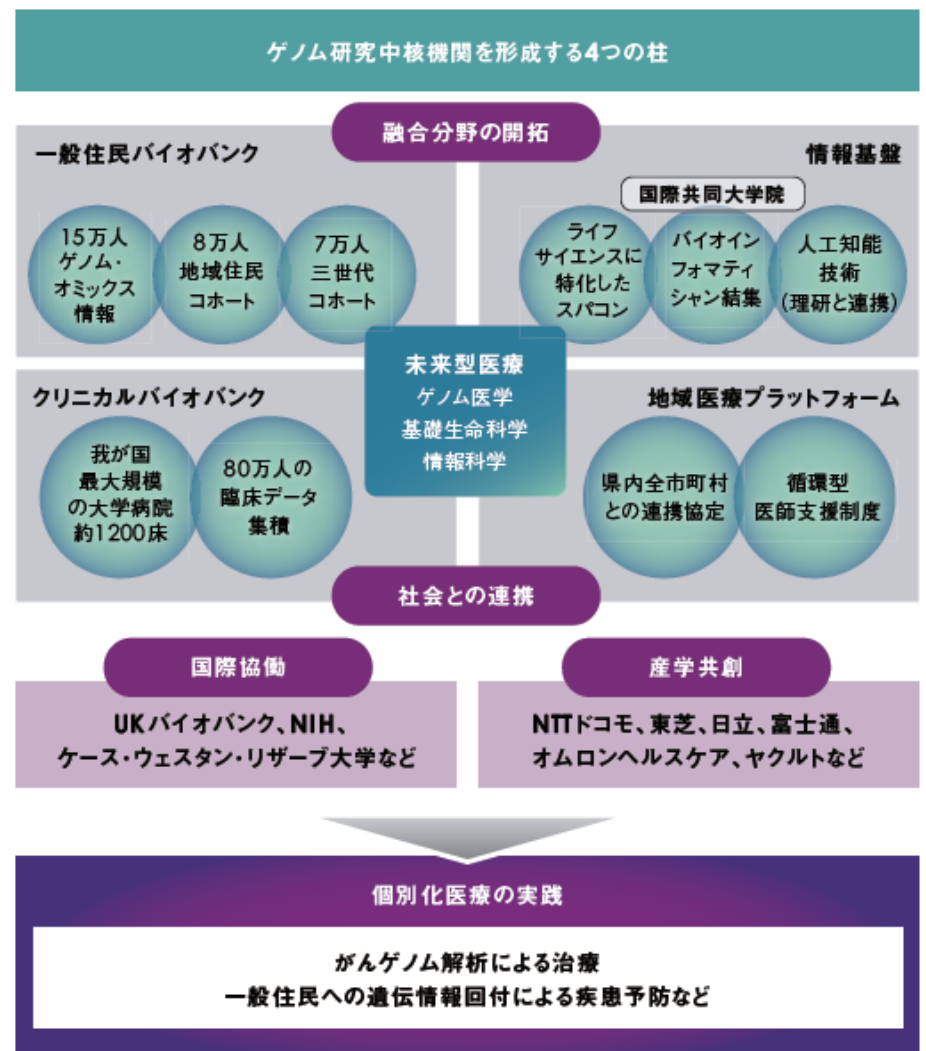


- ◆ 30億円の寄附による研究棟整備
- ◆ 300億円超の民間先端設備の導入
- ◆ 外部資金で15億円の運営資金を確保

- 大学が生み出す世界トップレベルの研究
- 世界に先駆けたスピントロニクス技術の開拓
 - 革新的な不揮発メモリ素子の発明
 - 新たな超低消費電力化技術の開発
- 国・自治体と連携した税制特区制度
- 民間投資促進特区（情報サービス関連産業）制度による法人税の減免
 - 先端研究機器への固定資産税等相当額の助成

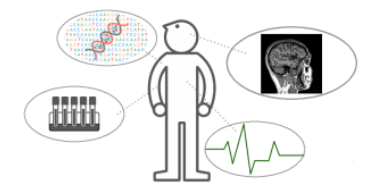
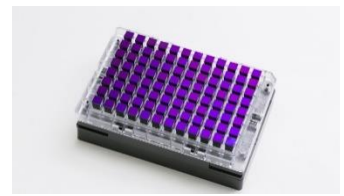
未来型医療

- 東北メディカル・メガバンク機構
- 世界有数の複合バイオバンク
- 情報科学との融合研究を推進



東北メディカル・メガバンク機構

東日本大震災の被災地の地域医療再建と健康支援に取り組みながら、医療情報とゲノム情報を複合させたバイオバンクを構築。構築したバイオバンクの情報とその解析結果に基づく新しい医療の創出を通じ、被災地の医療人の求心力向上、産学連携の促進、関連分野の雇用創出、医療復興を目指す。



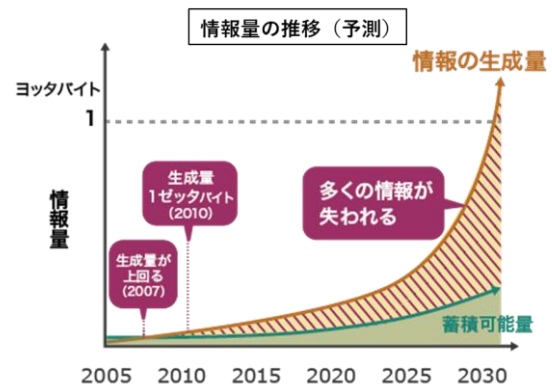
ジャポニカアレイ® NEOを開発
ToMMoでは、日本人集団に特有の疾患関連SNP等を搭載したSNPアレイの設計を完了

世界初の三世代の家系情報付き出生コホート調査総計73,000人以上を登録。個人の特徴に合わせた予防や治療を選択する次世代医療の実現へ。

巨大情報量そして量子コンピューティングへ

- 量子アニーリングマシンのソフトウェア実践科学（東北大学は、同分野において、世界的に最もアクティビティの高い大学の一つ）
- 東北大学Q + H P Cデータ駆動型科学技術創成拠点長に大関准教授を任命
- 東京工業大学と連携したコンソーシアム型の大型産学連携

巨大情報量への対応が社会的課題
ビヨンドビッグデータ技術の開拓

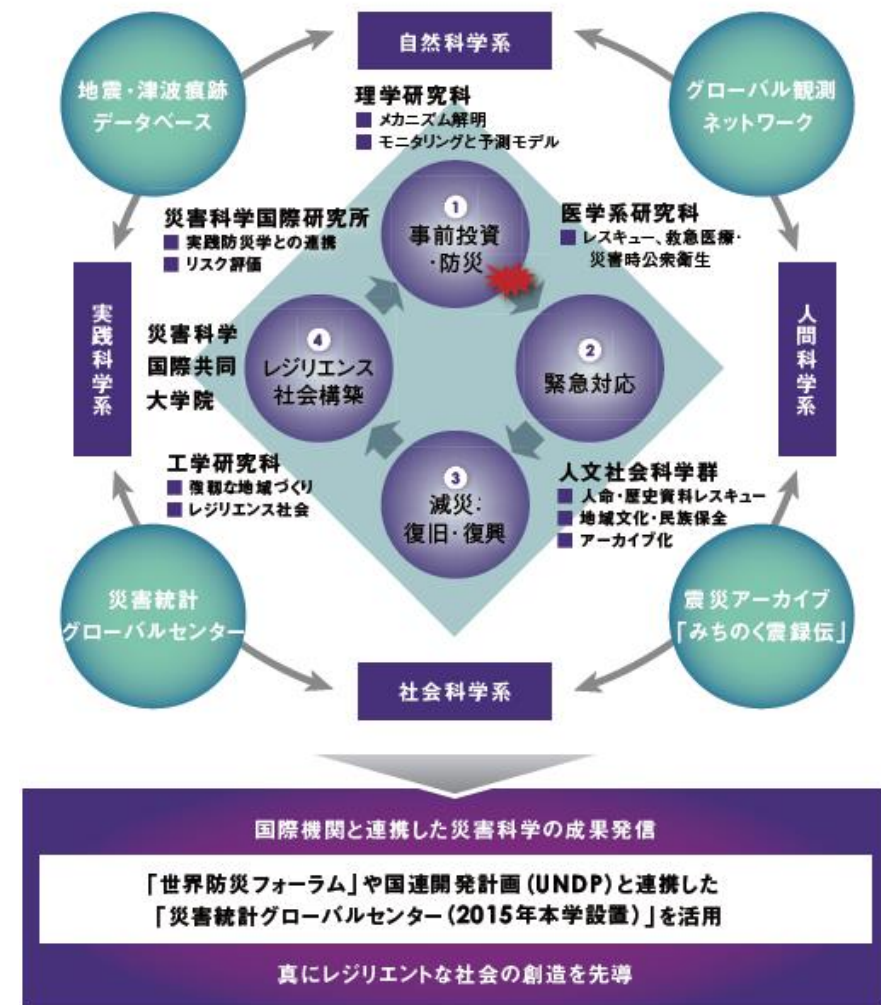


大関真之准教授



災害科学

- 災害科学国際研究所の創設
- 自然災害の膨大なデータを蓄積し世界の研究をリード



タフ・サイバーフィジカルAI拠点

タフなAIとロボティクス



田所 諭 教授

- 実世界の無限定環境で安定に稼働するロボティクス (災害・極限ロボティクス)
- AI (言語化／非言語化、構造化／非構造化、少数例からの学習、説明可能性)
- スピントロニクスに基づくAI計算モジュール (省電力、高速演算、セキュアな計算)
- 交通・インフラにおける多元的データに基づく災害時などの非日常の検出と制御

タフ・サイバーフィジカルAI研究開発と社会実装

- パートナーとの共同による **根本的課題解決と新事業創出**
- 実用化研究開発・実証試験と、基盤研究の両輪
- 課題の分析とモデリング、グラウンディング

社会との協働，課題への取組

- 法制度 (個人情報、安全性等) の整備
- AI・ロボット活用の倫理
- **投資を生み、人材が育ち、産業が花開く、園場の整備**

産業とアカデミアが共同で課題解決に取組み、人材育成、新たな価値創造を行う
オープンイノベーションハブ

わが国の社会課題・産業課題の解決と国際競争力強化



大学発ベンチャー企業『RTi-cast』

東北大学と企業による産学連携研究の成果と減災への思いから生まれたリアルタイム津波浸水・被害推定のシステムおよびデータの構築・整備・運用・更新、システム等を用いた予測情報、計算結果の提供を行う大学発ベンチャー企業



第1回オープンイノベーション大賞
「総務大臣賞」受賞 (2019.2.5)



代表発起人・CTO：
越村 俊一教授



シームレスなベンチャー支援の取組みにより、東北大学発ベンチャー企業の創出が加速。

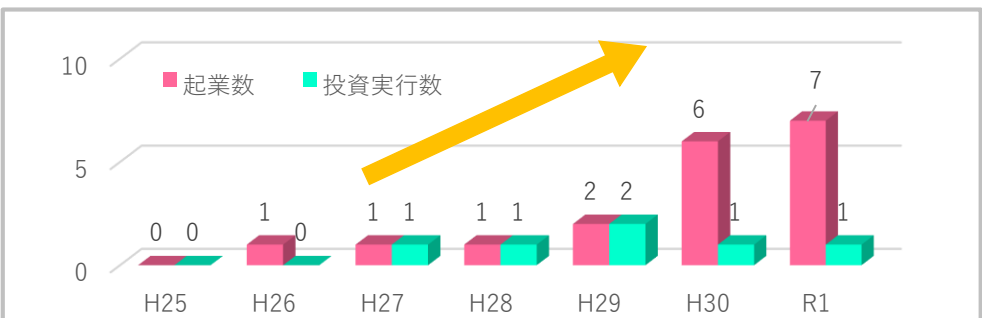
東北大学発ベンチャー企業数

121社 (2019年度)

※2017年度比40.7%増

出典：経済産業省：大学発ベンチャー実態等調査

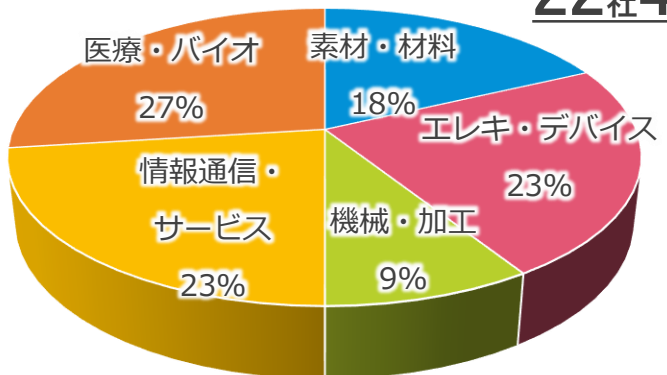
BIPを背景とする起業・投資実行数



THVP-1号ファンド投資状況

東北大学の強みである素材・材料、エレキ・デバイス等ものづくり企業はもとより、医療・バイオ、情報通信・サービス等、多様な業種の東北大学発ベンチャーに投資。

22社47.1億円



学生による起業 株式会社Adansons (2019年6月設立)

東北から、世界をリードするテック系ベンチャーが次々と生まれている。背景には東北大学で研究が進む数々の先端技術と、その技術で起業する教員や学生の気運の高まり、さらには徐々に形作られつつある仙台ならではのスタートアップ・エコシステムがある。



東北大学名誉教授が開発した従来のAIの欠点を克服する新しいAIアルゴリズム「参照系AI」を通じ、必要な技術の社会実装、皆が安心して暮らせる社会の実現を目指す。
仙台市のファンド「MAKOTOキャピタル」の出資を受けて2人の東北大学生と東北大学教授が立ち上げたAIスタートアップ。
2020年仙台市等主催「TGA (Tohoku Growth Accelerator) Festival 2020 (デモデイ)」審査員賞 (第1位相当) 受賞





日本のスタートアップに次の成長を。
世界に次の革新を。

東北大学内インキュベーション T-Biz入居企業からJ-Startup 3社選定！



中小機構のビジネスインキュベーション（BI）施設は、全国で29か所。
1か所3社選定は最多で仙台のみ



AI SILK® Turning SILK into SENSORS

エーアイシルク株式会社 代表取締役社長 岡野 秀生氏

2015年東北大学鳥光特任教授の研究成果である、「電気を通すシルク」の技術を活用し、人間の装着に適したフレキシブルシルク電極=エーアイシルクを展開する。開発に当たっては、福島県川俣地域から素材のシルクを調達、山形県置賜地方の「置賜紬」の草木染による手織り技術を活用するなど、東北の伝統技術との協働にも取り組む。飛躍的に拡大しているウェアラブル端末への活用、単に「着る」だけでなく、自動車のシートやハンドル用の素材として活用することで運転中の居眠り運転防止などへの応用にも期待。2018年度J-Startup企業に選定



株式会社マテリアルコンセプト 代表取締役 CEO小池美穂氏
東北大学小池研究室では、SiウェハースとCu配線の間に拡散バリア層を形成するとともに、Cuペーストの酸化を防ぐ焼成条件を見出し、世界の名だたるメーカーが20年以上取り組んでも成し得なかった実用化への先鞭を付けました。2012年文部科学省のSTART事業に採択された後、要素技術の確立を経て2013年創業。T-Bizに入居。今後、この画期的な技術が広がり、さらには国際標準化が進めば、太陽光発電等の環境低負荷の実現を通じ、再生エネルギーの普及拡大に期待。大学発ベンチャー表彰2018で文部科学大臣賞を受賞。2019年度J-Startup企業に選定

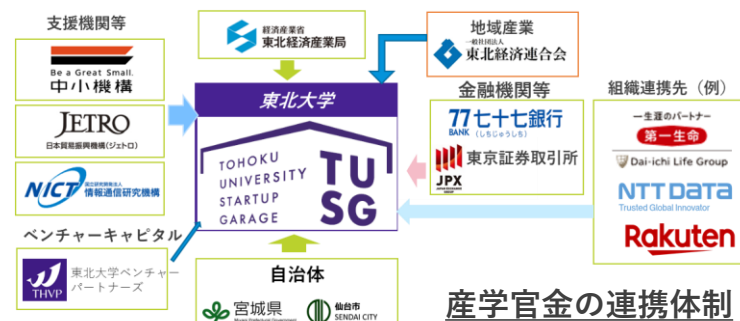


ボールウェーブ株式会社 代表取締役 CEO 赤尾 慎吾氏

東北大学の山中一司教授は、球体では、表面波が赤道上を「広がらずに、同じ幅を保ったまま伝搬する」という現象を発見。この長距離伝搬現象はそれまでの物理学の常識を覆す大発見で、この原理を利用した共同研究に企業の研究員として参加し、その後、東北大学未来科学共同研究センターの特任准教授として研究を続け、文部科学省のSTART事業に採択された後、2015年11月に山中教授を含むメンバー4人で創業。2019年11月には、JAXA宇宙探査イノベーションハブの研究提案事業の採択を受け、月・火星・小惑星探査時のガスや大気の定量測定での利用、宇宙資源利用、生命科学への応用に期待。2019年度J-startup企業に選定

東北大学スタートアップガレージ (TUSG)

- 民間ベンチャーキャピタル・アクセラレーターである一般社団法人 MAKOTO（仙台市）と提携し、2017年11月に青葉山キャンパス内に設置し、学生・教職員向け個別起業相談やe-learningによる起業教育等を開始。
- TUSGは起業を志す者、起業経験者、支援者及び投資家等が会する交流の場を形成（OBOG、アドバイザーが協力・バックアップ）。
- 運営は国のベンチャー支援施策を担う独立行政法人中小企業基盤整備機構と連携し、MAKOTOのスタッフが常駐する新しい試み。
- 起業関連のイベントやピッチイベント等を多数開催



EARTH on EDGE

- 文部科学省次世代アントレプレナー育成事業の補助を受け、6大学が連携してアントレプレナーシップ教育プログラムの開発と実施により、アントレプレナーの育成を行う。
- 教育支援では、学部生から大学院生までを対象とする。基礎ゼミ、展開ゼミから各種PBLまでの高度なプログラムを受講でき、他大学との連携プログラムも実施。
- 事業化支援では、学生から社会人までTUSGを拠点に起業を目指す全ての希望者を対象にプログラムを展開。

■EARTH on EDGE コンソーシアムの東北大学が提供するプログラム

教育支援（高等教養教育・学生支援機構）

- 基礎ゼミ
- 展開ゼミ
- 大学院医療機器学
- ジャパンバイオデザイン
- デザイン思考・海外研修
- フィールドデザインセンター／PBL

事業化支援（産学連携機構）

- BIPインターンシップ（事業イノベーションセンター・東北テクノアーチ）
- VCネットワーク／PBL（TEPインターンシップ）
- グローバル・アントレプレナー（Falling Walls Venture）
- 東北大学ビジネスコミュニケーション・アントレ育成拠点
- 東北大学学生起業部（VEXと連携）

挑創カレッジ

「学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成」という『東北大学ビジョン2030』の宣言を踏まえ、時代が要請する現代的リベラルアーツの素養を修得する“学びの場”として、学生向けに3テーマで実践教育プログラムを実施。

①グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）

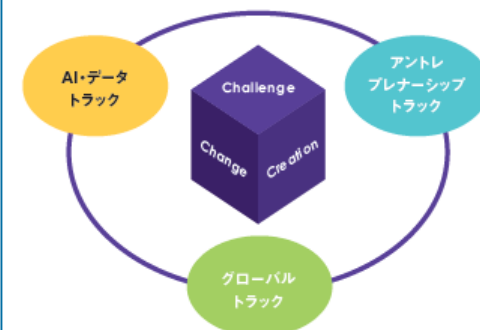
様々な分野でグローバルに活躍するために求められる、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力の修得と海外研鑽を目的とする。

②コンピューティショナル・データサイエンス・プログラム（CDSプログラム）

数理・データサイエンスの手法を適用して様々な問題を解決していくためのスキル・知識の修得を目的とする。

③企業家リーダー育成プログラム（TELプログラム）

イノベーションを先導する起業や新事業創出に挑戦していくための知識・行動力の修得を目的とする。



世界のイノベーションを牽引するグローバル・イノベーションキャンパスの創造

国際集積エレクトロニクス研究開発センター

- 30億円の民間寄附による研究棟整備
- 300億円超の民間先端設備の導入
- 復興特区、税制優遇等の活用

災害科学国際研究所

- 2012年開所：本学約70年ぶりの新設附置研究所
- 東日本大震災の経験に基づき実践的防災学を確立
- 世界防災フォーラムの推進

革新材料創成センター

- JX金属株式会社の寄附により2020年7月に設置予定
- オープンイノベーション拠点

植物フィールド

農学研究科

理学研究科等

情報科学研究科
環境科学研究科

サイエンスパークゾーン

リサーチコンプレックスの形成
による大型産学官連携の推進

ユニバーシティ・ハウス

- 2018年10月入居開始
- 国際混住型学生寄宿舍
- 日本人と留学生が8LDKを共有
- 国内最大規模 1,720人定員

アンダーワンルーフ 型産学共創拠点

本部、TLO、VC、NICHe
などを集約化
(2018年10月)

工学研究科等

地下鉄東西線 (青葉山駅)

- 2015年12月開通
- 仙台駅から9分
- 総事業費2,300億円
- 大学関連駅(4駅)

次世代放射光施設建設予定地 (2023年運用開始予定)

- 整備費用の概算総額:約360億円程度
(想定される国の分担:最大約200億円程度)
- 「官民地域パートナーシップ」による整備
 - ✓ 【主体】量子科学技術研究開発機構
 - ✓ 【パートナー】一般財団法人光科学イノベーションセンター(代表機関)、宮城県、仙台市、国立大学法人東北大学、一般社団法人東北経済連合会

自己財源
260億円

国立大学初の国費に依存しない 大規模キャンパス整備

- 総面積81万m²、東京ドーム17個分のスペース
- 旧キャンパスの売却収入260億円により、青葉新キャンパスの土地取得・造成およびキャンパス移転にかかる全ての費用を負担

次世代放射光施設を中核としたリサーチコンプレックスの構築

文部科学省が所管・推進し、一般財団法人光科学イノベーションセンターが主体となり、宮城県、仙台市、東北大学や東北各県の公設試験研究機関との協力体制のもと、官民地域パートナーシップを構築。一口5,000万円の資金出資を行う放射光ユーザー企業（コウリションメンバー）にはNTT東日本など約70社が既に参画。次世代放射光施設周辺に造成されるサイエンスパークには、世界的に競争力の高い企業・スタートアップが集積し、産学金官が連携した国内最大規模のリサーチコンプレックスが形成され、世界の科学技術イノベーションを牽引する。



次世代放射光・産官学金パートナーシップ



都市型産業の創造

- ユニバーサル社会づくり
- 次世代の観光地域づくり

仙台市

を目指し、先端テクノロジーを社会実装するイノベーション・エコシステムの実証実験に取り組む。



医工学（バイオニクスなど）
障害者、高齢者の活動支援
高齢者に優しい社会



自動運転
次世代電池、EV普及
優れた環境



食産業の復興
豊かな食



未来型医療、創薬、セキュリティ技術
安全・安心

社会実装における課題提起
AI, ビッグデータ



他の放射光施設事例：ESRF / GIANT（フランス グルノーブル市）
欧州の3基盤施設、フランスの2研究所、3大学が連携し、強力なイノベーションキャンパスを形成



研究者6,000人、学生5,000人
企業関係者5,000人
経済効果：約5,300億円、
10年間で200社が起業

地域イノベーションを駆動する人材育成

地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）

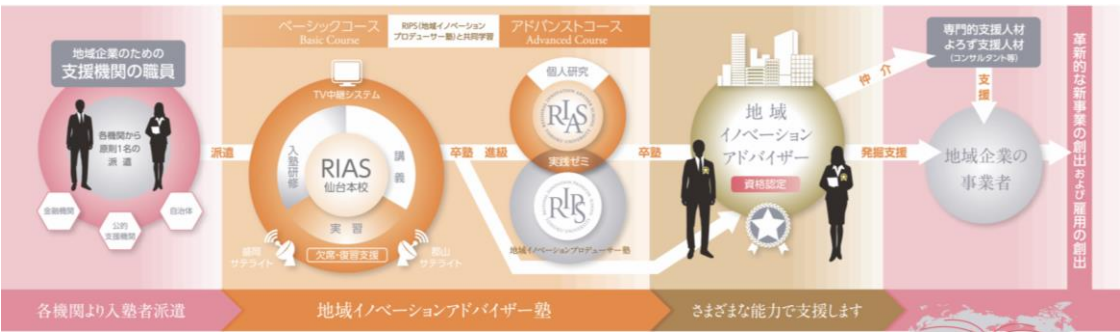
- 地域企業の経営人材を対象に、革新的なイノベーションによる新事業の開発を促進し、地域における新たな雇用機会の創出と産業振興に貢献できる革新的プロデューサーを育成



2012年度より7年間で205名が卒塾

地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）

- 地域企業の経営者の目線で事業革新を支援するパートナーとなるため、企業経営と事業革新に関する体系的な知識や支援に必要な実践的なスキルなどを学習する機会を提供



2015年度より4年間で112名が卒塾

卒塾企業の活躍『株式会社ワイヤードビーンズ』

事業内容：2009年創業。デジタルコマース領域における、開発からマーケティング、ブランド運営、保守、運営管理全般をカバー。

2013年、東北大学地域イノベーションプロデューサー塾に参加し「生涯添い遂げるグラス」補償サービスを考案し、主力商品化。新領域として地域伝統工芸とのコラボ商品開発にも積極的に取り組み、単に地域資源発掘支援に留まらず、自社の商品ラインナップに加え、販売促進にも貢献。

2017年～同塾講師として後進の指導にあたる。

実績：セールスフォースでのECサイト構築国内有数の実績

生涯を添い遂げるグラス等の地域資源コラボ商品は、専用サイトの他、伊勢丹三越、高島屋等でも展示・販売



※「生涯を添い遂げるグラス」とは

「職人とお客様をつなぐこと」をミッションに掲げたワイヤードビーンズの代表製品（製品が破損した場合、新しい同じ製品と何度でも交換できる補償システム）。MADE IN JAPAN、日本が世界に誇るガラス職人の熟練の技術と、GKインダストリアルデザインによる洗練されたフォルムが高次元で融合。国内外で数々のアワードを受賞。



生涯を添い遂げるグラス

地域の中小企業へ大学の先端技術導入と社会実装を支援
地域課題の解決と新規事業の創出・成長を後押し

情報知能システム（IIS）研究センター

- 電気情報系の約80の研究室が参画し、大学の最先端技術を活用し、産学官連携を推進して社会に貢献



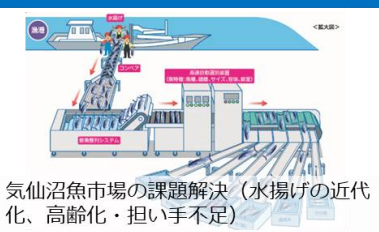
IIS研究センターの7年間の活動成果

- ・ 67件のプロジェクト形成
- ・ 26億円超の競争的資金獲得
- ・ 27億円の市内企業新規売上
- ・ 103名の市内企業新規雇用
- ・ 8企業誘致

活用企業『東杜シーテック株式会社』

2002年カーオーディオ向け部品製造で創業。軌道に乗り始めたところで、リーマンショックに直面し受注激減。自立した事業展開を目指し、東北大学の門をたたき、2009年から青木教授の下に6人の社員を派遣。開発力を高めていたその2年後、東日本大震災が。「復興の役に立ちたい」という思いから、東北大学の産学官連携研究開発拠点「情報知能システム(IIS)研究センター、青木教授らと連携し、特に大きな被害を受けた三陸沿岸水産業への支援を開始。魚の雌雄を超音波エコー画像で判別する装置「Smart Echo（スマートエコー）」や魚体選別機等を開発し、人手不足対策に大きく貢献。仙台市の「御用聞き型技術相談」も都度活用し、事業評価や販路拡大につなげているほか、仙台市のX-techイノベーション推進事業にも選定された。

事例1：カツオの自動選別機



事例2：魚の雌雄判別機



事例3：ホタテの自動ウロ取り機



リーマンショックから身につけた、地域の課題を解決する開発力

2010年社員約30人から、
今や100人超の中堅企業に成長。



令和元年度「情報化促進貢献個人等表彰」
「経済産業大臣賞」受賞 (2019.10.11)

事例4：画像AIを活用した自動判定



事例5：農業分野での実証



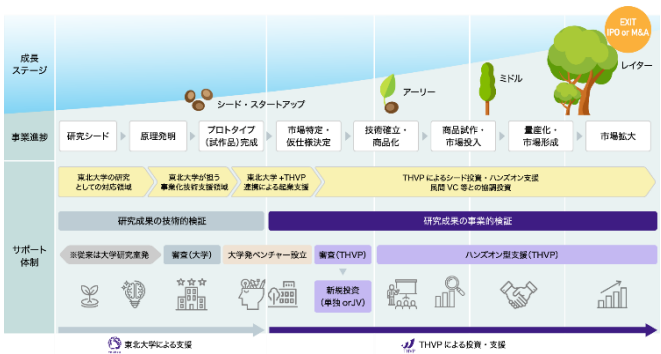
事例6：外観検査用産業用ロボット



超音波エコー画像で魚の雌雄を判別する装置

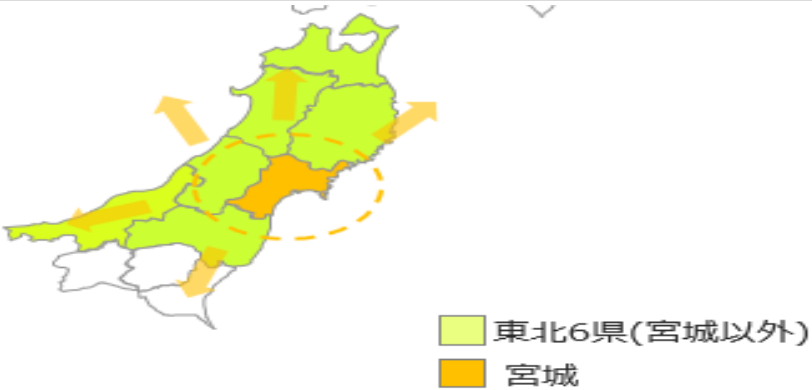
新ファンド構想およびベンチャー支援の広域プラットフォームの構築

産業競争力強化法改正を踏まえ、東北大学ベンチャーパートナーズ（株）では、事業化支援の対象を東北地方等の国立大学へ拡大した新ファンドの設立を検討。
（＊法改正により、民間出資金の範囲内で各国立大学への出資が可能）
新ファンドへの出資は、東北大学及び1号ファンド出資金融機関のほか、東北地方の地域金融機関等、インフラ系等の事業会社等に参加いただくことを検討。
新ファンドについては、第1号ファンドの進捗状況（新規投資完了）を見込み、国への手続きを経て2020年度上期に組成する方向で検討中。

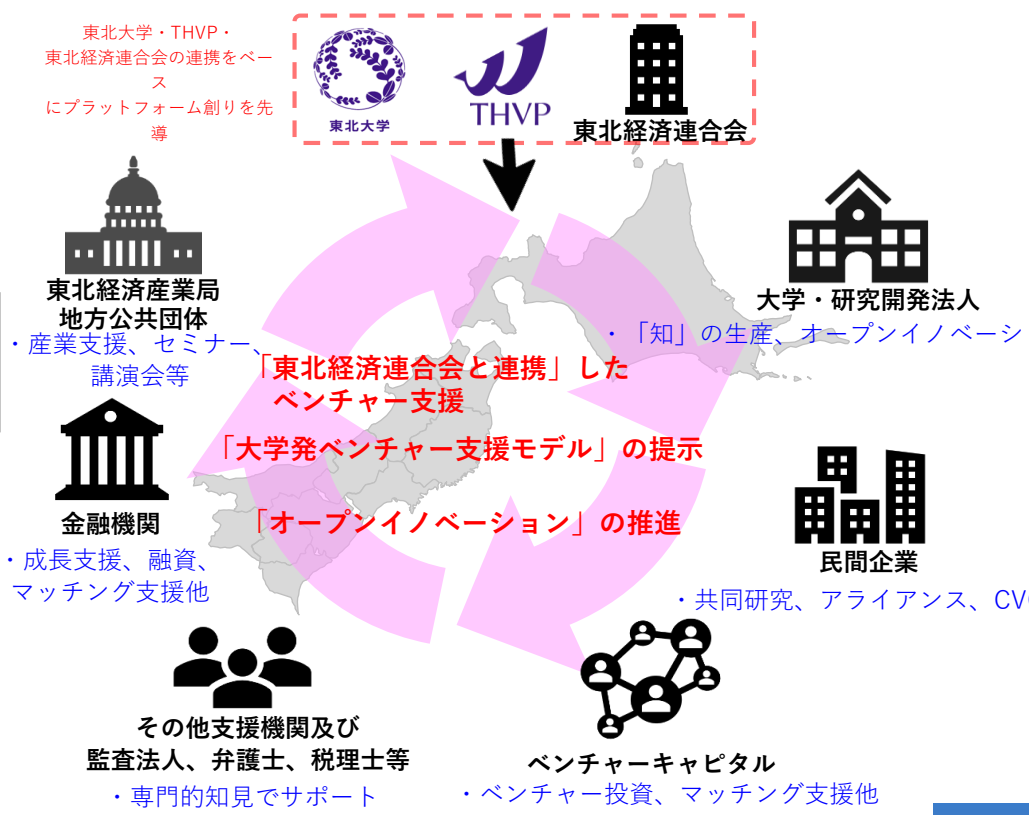


新ファンド構想の特徴

- 1 東北地方及び周辺のグローバル的成長と社会経済動向を見据えた「新産業創出」のための事業化支援を目的
- 2 対象エリアについては、東北6県を中心として、北海道、新潟、北関東等も検討
- 3 対象エリアの国立大学独自の事業化支援を実施



ベンチャー支援の広域連携プラットフォームの構築



産学官連携で「世界へ羽ばたくスタートアップ」を継続的に生み出す 「スタートアップ・エコシステム」の形成を目指します

社会の急激な変化の中で、地域経済を持続的に発展させていくためには、仙台・東北から、新たな市場の開拓を目指し、そして世界に挑戦していく、そういったスタートアップ企業のチャレンジを、地域が一体となって後押ししていくことが不可欠です。

仙台・東北からスタートアップ企業を連続的に輩出するエコシステムを構築するため、産学官金の連携によるオープンなプラットフォームとして、仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会を設立し、スタートアップ企業を連続的に生み出すエコシステムの構築を加速します。



仙台市長 郡 和子 氏

仙台市の起業支援の主な実績

アシ☆スタによるすそ野の拡大



アシ☆スタ

仙台市起業支援センター実績
 ・相談件数：7,000件以上
 ・創業者数：600社以上
 ・雇用労働相談センターを併設し、ワンストップ体制を強化

起業啓発・促進イベント



・起業家応援イベント「SENDAI for Startups!」は地方最大級の1,000名が参加するイベントに
 ・SENDAI Entrepreneur Week
 ・多様な団体と連携し、年間100件以上のイベントを開催

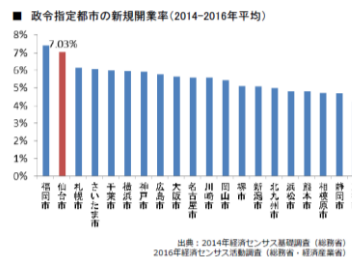
街をフィールドにした実証支援



仙台特区

・国家戦略特区
 ・近未来技術実証特区
 ・リビングラボ
 ・課題解決ICT実証支援
 ・クロス・センダイ・ラボ

新規開業率



・福岡市に次いで第2位
 ・事業継続率3年時点で85%以上

国内初の広域アクセラレータ



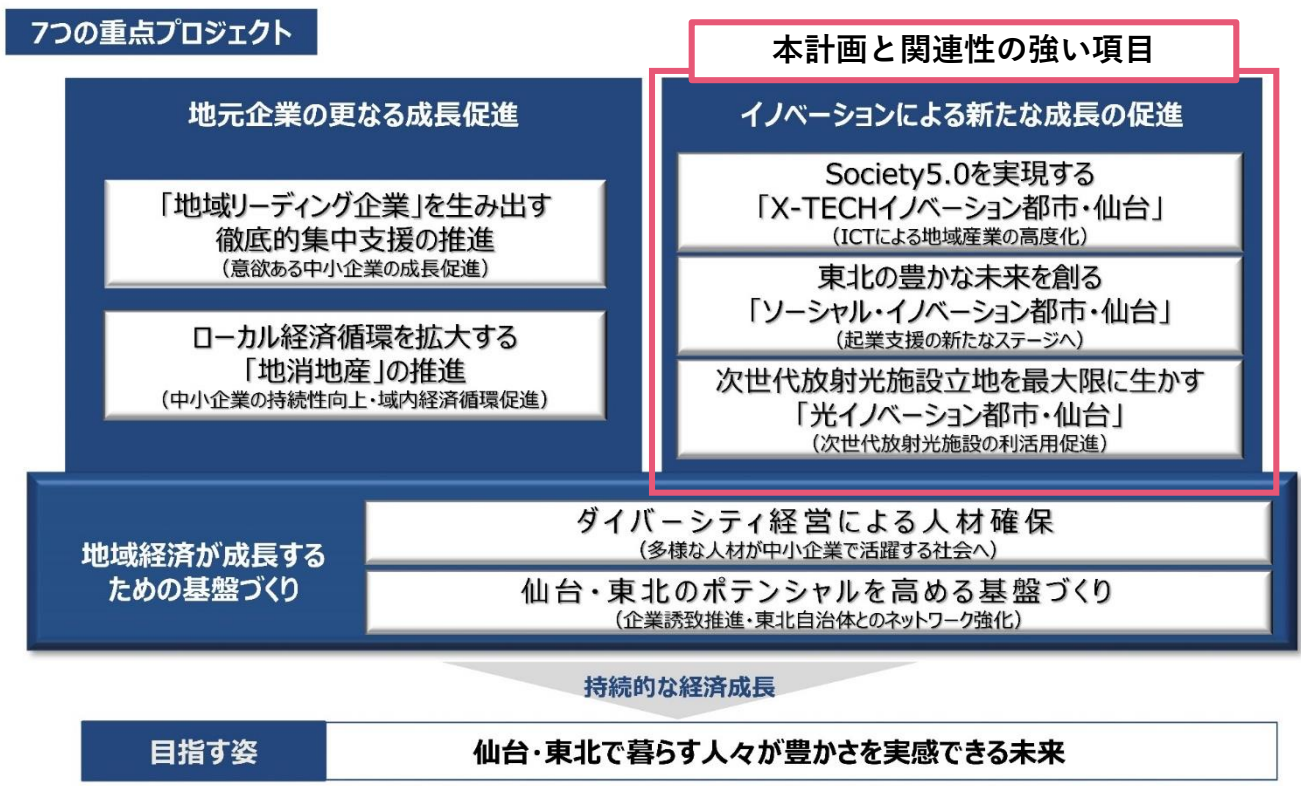
TGA
TOHOKU GROWTH ACCELERATOR

・東北グロースアクセラレーターでは資金調達額5億円以上、ビジネスマッチング300件以上を達成
 ・東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーターではSDGsの達成に挑戦する36名の起業家を輩出

イノベーションによる新たな成長の促進

人口減少社会の到来や経済のグローバル化の進展といった経済環境の変化に的確に対応し、地域経済を持続的に発展させていくため、2019年度から2023年度の経済産業政策全般の方向性を取りまとめた「仙台市経済成長戦略2023-豊かさを実感できる仙台・東北を目指して-」を2019年3月に策定。7つの重点プロジェクトを掲げ、地元企業のさらなる成長促進とイノベーションによる新たな成長の促進に向け、特に地域経済を牽引するようなロールモデルとなる企業を生み出すための重点プロジェクトを通じて**既存企業の第二創業・新事業進出促進、ベンチャー企業やスタートアップの創出・育成を目指す。**

対象期間	2019年度～2023年度（5年間）		
取り組みの視点	地元企業や産業の競争力強化	経済成長と社会的課題解決の両立	東北の持続的発展への貢献
数値目標	2023年度までに黒字企業割合50%超		



東北の豊かな未来を創る 「ソーシャル・イノベーション都市・仙台」 (起業支援の新たなステージへ)



Society5.0を実現する 「X-TECHイノベーション都市・仙台」 (ICTによる地域の産業を創る)



仙台を世界に誇るスタートアップ拠点都市へ

震災復興の次なるステージを目指し、経済活動と交流の中心である都心部を再構築するため、内閣府より都市再生緊急整備地域の指定を受け、「せんだい都心再構築プロジェクト」を始動。本プロジェクトは、杜の都・仙台の都市個性を活かしながら、若者や新しい働き方が集い、賑わいと交流、継続的な経済活力を生み出し続ける躍動する都心を目指し、市民や事業者の方々などとの連携のもと、挑戦を重ねながら都心部の機能強化、起業家や支援者が集う、大学等の知見を活かしたスタートアップ拠点の形成を進めていく。

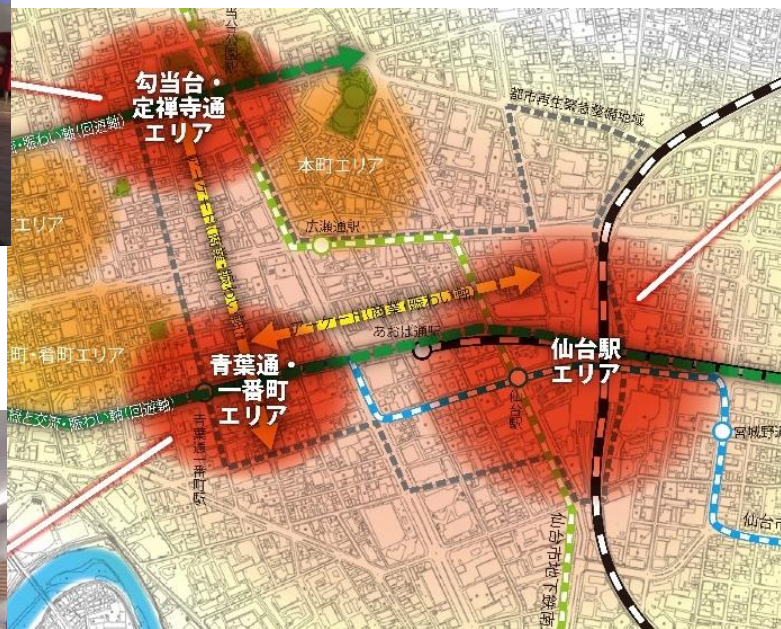


定期的なミートアップイベントの開催とイノベーション支援プログラム
例：東北グロースアクセラレーター



エッジコンピューティングやセキュアな通信環境などAIやIoT技術の社会実装に向けたPoC（実証実験）環境
例：スマートイノベーションラボ

藩政時代から東北の中心地として栄えた仙台 産学官金様々な資源が集積する中心部



産学官金の多様な人材が集積し交流する
機能を持つ高機能オフィスビル・
スタートアップ拠点開発プロジェクトが進行中



スタートアップ、大企業、政府機関、ベンチャーキャピタル、スタートアップ支援組織、研究機関などが集積するワーキングスペース
例：ケンブリッジ・イノベーション・センター（CIC）



大企業、ベンチャー企業、大学などが、パネルディスカッションやピッチイベントやセミナーなどを開催
例：TOHOKU IGNITION、SPARK! TOHOKU

II. 地方自治体の取組 スタートアップ支援 総予算額

総予算額

単位：千円

1,200,000

1,000,000

800,000

600,000

400,000

200,000

0

2018年度

2019年度

2020年度

■ スタートアップ支援関連予算 ■ 次世代放射光施設への出資金

GOOD GROWTH

ソーシャル・イノベーションの実現

課題先進地・東北から、
世界に挑戦するスタートアップを輩出

海外展開
フィンランド
タイなど

仙台市のスタートアップ支援施策

事業拡大

成長期

- ・ 仙台未来創造企業プログラム（IPO支援）
- ・ グローバルスタートアップ創出・育成事業（アクセラレーター）
- ・ 外部人材による中小企業の新事業創出促進事業（CXO人材確保）
- ・ スタートアップ・エコシステム拠点都市推進（拠点形成）
- ・ 都市間連携販路開拓支援事業
- ・ 輸出入チャレンジ支援助成金（海外展開支援）
- ・ プロボノ活用型起業家支援事業（人材確保）
- ・ X-TECHイノベーション推進事業（オープンイノベーション促進）
- ・ IT産業関連展示会出展支援事業（販路開拓支援）
- ・ 国際的起業イベント出展（販路開拓支援、PR支援）
- ・ フィンランド連携型IT海外展開支援事業
- ・ 仙台タイ経済交流サポートデスク（海外展開支援）

事業化

立ち上げ期

- ・ 起業家支援資金融資制度
- ・ 起業家ネットワーキング事業（コミュニティ形成）
- ・ 先輩起業家メンター事業
- ・ 先端テクノロジーを活用したSDGsスタートアップ創出プログラム
- ・ ソーシャル・イノベーター育成・支援（アクセラレーター）
- ・ Care-Tech/Health-Tech推進事業、Wellbeing産業創出（開発支援）
- ・ 東北大学連携型起業家育成（T-Biz：インキュベーション施設）
- ・ 中小企業新製品等開発支援補助金
- ・ 企業立地助成金
- ・ ピッチイベント（SPARK! TOHOKU、SENDAI ICT PITCHなど）

アイデア実証

起業検討期

- ・ 起業啓発・促進イベント開催（SENDAI for Startups!）
- ・ 女性のための起業相談DAY
- ・ 起業相談窓口、起業ワンストップ相談事業、出前経営相談
- ・ 起業家セミナー、起業家交流会
- ・ 外国人起業人材誘致促進事業（IGNITE SENDAI STARTUPS）
- ・ クリエイティブプロジェクト助成事業（開発支援）
- ・ 多様な人材活躍推進事業（女性、シニア、外国人）
- ・ Global Lab SENDAIコンソーシアム事業（IT人材育成）

成長支援・海外展開支援

アクセラレーションプログラム
国内外のネットワーク
ビジネスマッチング
オープンイノベーション促進
人材確保、販路開拓 等

個別集中支援

インキュベーション施設
アクセラレーションプログラム
ハンズオン支援、資金調達支援
ピッチイベント 等

知識習得・試作開発支援

アクセラレーションプログラム
プロトタイプ開発支援
資金調達支援
各種セミナー・イベント 等

スタートアップの源泉

起業しやすい環境づくり
（起業の啓発、気運醸成）

税制優遇

雇用労働相談
センター

規制緩和

スタートアップ
ビザ

EDGE
NEXT

仙台市ソーシャル・
イノベーション創生特区

- ・ 大学生向け起業体験プログラム（アキナイベース）
- ・ 小中高生向け起業体験ワークショップ
- ・ 仙台子ども体験プラザ（職業体験）
- ・ スタートアップ奨学金（海外留学支援）

仙台のみならず東北全域の経済活性化を目指し、東北全域の起業家を対象とした様々なプログラムを実施



グローバルスタートアップ創出・育成 東北グロースアクセラレーター

イノベーションの創出や社会的課題の解決などを目指しながら事業の拡大を図り、地域経済の活性化を目指すスタートアップに対し、必要な支援を提供することで事業の成長を加速させる東北全域を対象とした広域アクセラレーションプログラム。



ソーシャルイノベーター育成・支援 東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター

課題先進地の東北で、社会起業に関する機運を醸成し、集中支援プログラムを通じて社会課題解決に資する社会起業家を輩出するとともに、仙台を中心として東北に社会起業家を連続的に輩出するエコシステムを構築する。



先端テクノロジーを活用した SDGsスタートアップ創出プログラム

未充足の社会課題に対し、大学の研究シーズ等革新的な技術を活用したビジネスプランの立ち上げを支援することで、SDGsの達成に資する国内外の課題解決を目指すビジネスを創出し、ユニコーンの輩出による地域経済活性化を目指す。



SENDAI for Startups!

地方最大級の起業イベント。国内外から1,000名以上が参加。起業家や支援者等が集い、つながり、着火する場。



500Startups Pitch Session

英語でのピッチスキル向上に向けトレーニングを実施。大学生、外国人起業家や海外展開を目指す起業家が参加。

担当部局名・担当者数

庁内横断の連携体制でソフト・ハード両面からスタートアップ・エコシステム拠点形成を促進

経済局産業政策部（局長1名、次長1名、部長1名）

経済企画課

【IPO支援】課長1名、係長1名、企画調整係2名

地域産業支援課

【外部人材活用支援】 【制度融資】係長1名、企業支援係4名

産業振興課

【イノベーション創出】 【スタートアップ支援】
課長1名、イノベーション推進担当課長1名
創業支援係5名、成長産業係6名、国際経済室4名

企業立地課

【助成金】課長1名、都市型産業係3名

まちづくり政策局政策企画部

プロジェクト推進課

【国家戦略特区】 【公民連携窓口】課長1名、課員8名

都市整備局市街地整備部

都心まちづくり課

【都心再構築プロジェクト】課長1名、都心整備係4名



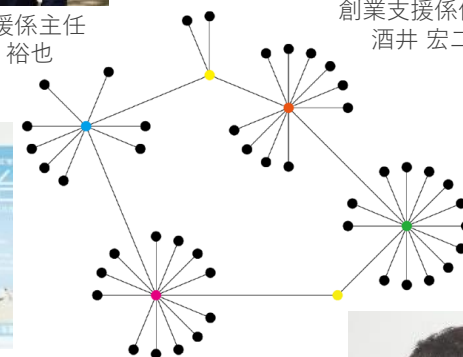
創業支援係主任
白川 裕也



創業支援係係長
酒井 宏二



プロジェクト推進課主事
松原 由佳



成長産業係主事
東北大学特任助教
加藤 廣康

支援の顔となる職員

- ・ 経済局 産業政策部 産業振興課 創業支援係 係長 酒井 宏二（経験年数2年） 【スタートアップ支援】
- ・ 経済局 産業政策部 産業振興課 創業支援係 主任
Public Connector / STARTUP IMONITY 代表 白川 裕也（経験年数10年） 【スタートアップ支援】 【U-40】
- ・ 総務局東京事務所（経済産業省派遣）
経済産業省 新規事業創造推進室 スタートアップ支援担当 稲舟 基久（経験年数2年） 【スタートアップ支援】 【U-40】
- ・ 経済局 産業政策部 産業振興課 成長産業係 主事
東北大学情報知能システム研究センター 特任助教 加藤 廣康（経験年数3年） 【イノベーション創出】 【U-40】
- ・ 経済局 産業政策部 経済企画課 企画調整係 主査 大竹 洋平（経験年数10年） 【IPO支援】 【U-40】
- ・ まちづくり政策局 政策企画部 プロジェクト推進課 主事 松原 由佳（経験年数4年） 【国家戦略特区】 【公民連携窓口】 【U-40】

専門性や庁内外にネットワークを持つ職員がハブになり、様々なリソースをスタートアップ支援に活用

MOUや包括連携協定を積極的に締結し、強固な連携体制を構築 課題先進地・東北からイノベーション創出を目指す

仙台起業家週間「SENDAI Entrepreneur Week」

「SENDAI for Startups!」を単発のイベントで終わらせず、仙台市全体で起業を盛り上げていく雰囲気を出創出できるよう、2015年から「SENDAI Entrepreneur Week（仙台起業家週間）」を開始。地域の様々な団体と連携し、起業・創業に関する様々なイベントを仙台市内で集中的に開催。「SENDAI Entrepreneur Week 2019」では期間中30以上のイベントが開催され、3,500名以上の方が様々なイベントに参加。

「SENDAI Entrepreneur Week」の開催を通じて、「起業」という選択肢を東北に根付かせ、起業への憧れを創出し、起業家を増加させ、起業家を応援する地域の機運をさらに高めることを目指す。

仙台経済同友会・東北三栄会との連携

地域経済を牽引する企業経営者の団体である仙台経済同友会及び東北三栄会と連携し、アクセラレーションプログラム採択企業と経済同友会会員企業とのマッチングイベントの開催。出資機会や事業提携の場の提供、アクセラレーションプログラムメンターやアドバイザリーボードとしての実践的なアドバイスの実施、東北の起業家・経営者と大学生とのマッチングイベントの開催を通じた起業家の成長支援を連携して実施している。

Nokia社とのドローン等による防災・減災プロジェクト

2005年から続く仙台・フィンランドの関係の発展形として、フィンランドを代表するグローバル企業NOKIAと連携協定を締結。ドローン、IoT、次世代通信技術等を活用したまちづくりと、地域産業の活性化、国際化を推進。

Philips Co-Creation Centerの開設

オランダに本社を置き、口腔ケア等のヘルスケア事業において世界的に事業を展開しているフィリップスが、課題先進地・東北をフィールドとした実証を行うことを目的に日本初の研究開発拠点を仙台市内に開設。

本市は、同社を事業パートナーとして、ヘルスケア領域の課題をITで解決するスタートアップの創出とオープンイノベーションの促進をテーマとした新たな取り組みであるHealthTech推進事業を開始。

民間人材の登用

経済局では、中央省庁や日本貿易振興機構等出向経験者、商社、保険、鉄鋼、金融、教育、情報通信産業等を経験した社会人採用職員を多く配置しており、シリコンバレー等でスタートアップ支援に携わった職員もいる。また、七十七銀行と「地方創生に向けた包括連携協定」を締結し、七十七銀行より1名職員が派遣され金融機関のノウハウを活かした企業誘致・起業支援活動を展開している。



「ユニコーン」を輩出するためには市場の広がり回避は避けて通れない課題となるため、
欧米（フィンランド共和国をハブ）、アジア（タイ王国をハブ）、中東・アフリカ（INTILAQをハブ）に
幅広いネットワークを構築



国際産業振興協定

2005年からビジネスフィンランドやフィンランド共和国オウル市等と産業振興に関する協定を締結し、スタートアップの相互支援、EU市場への海外展開を支援。



Polar Bear Pitching

フィンランド共和国BusinessOuluと連携しPolar Bear Pitchingの日本予選会を仙台で開催。仙台的起業家が本選出場し日本人初となる決勝進出。



IGNITE SENDAI STARTUPS

仙台での起業を考える外国人を国内外から仙台へ招聘。イベント開催、専用ウェブサイト、動画、SNS等を通じて、住環境やビジネス環境に関する情報提供、支援者とのマッチング、ビザ取得支援などを実施し、事業の立ち上げを支援。



ハーバード・ビジネス・スクール

ハーバード・ビジネス・スクールの学生が、ジャパンIXPという授業の一環として毎年東北を訪問。仙台市とINTILAQ東北イノベーションセンターが連携し、世界最先端のソーシャル・イノベーションについて東北の社会起業家とのワークショップやフィールドワーク、ケーススタディを実施。

Digihubへのスタートアップ派遣

スタートアップVISA

国家戦略特区及び経済産業省の外国人創業・起業活動促進事業を活用。日本で創業する外国人に必要とされる「経営・管理」の在留資格の認定要件を緩和。

SXSWへのブース出展

仙台多文化共生センター

多言語による生活相談窓口を開設。様々な相談対応（在留資格、行政手続き、生活情報など）や情報提供等を行う。

SLUSH TOKYOへのブース出展

タイサポートデスク

タイ王国と協力協定を締結し、サポートデスクを開設。ASEAN市場への海外展開を支援。



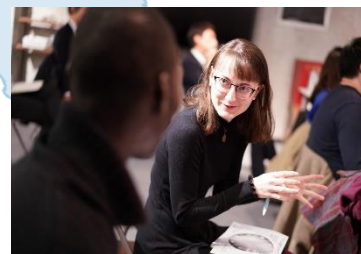
INTILAQネットワーク（中東、アフリカ）

INTILAQ東北イノベーションセンターのネットワークを活用し、カタールをハブとした中東マーケット（イスラム圏含む）、INTILAQチュニジアをハブとしたアフリカマーケットへのアクセスを支援。



スタートアップ奨学金

仙台での創業に関心のある学生等を対象に奨学金を貸与。大学生等をグローバル人材として育成する。



500Startups Pitch Session

英語でのプレゼンテーションスキルを高めるためのワークショップを開催。東北から世界へ目を向ける機会を作るとともに、仙台にいる外国人の起業支援を行う。

仙台・東北のスタートアップエコシステムの発展に向け、国内外の自治体と連携し、ソーシャル・イノベーションを加速

フィンランド共和国オウル市（2005～）

オウル市と仙台市は2005年に協定を結び友好関係にあり、**仙台フィンランド健康福祉センター**を拠点として、健康福祉分野を中心に起業家や中小企業の相互支援を実施してきた。近年はスタートアップ支援での連携を強化しており、2019年から日本-フィンランド国交樹立100周年を記念し、両国の関係の更なる発展を願い、オウル市発祥の**ピッチイベント「Polar Bear Pitching」**の国内予選を仙台で開始した。

東北各県との広域連携（2011～）

本市のアクセラレーションプログラム（**東北グロースアクセラレーター**、**東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター**）は、仙台市内に限定せず、広く東北6県のスタートアップ・社会起業家を対象としており、仙台から東北全体にエコシステムを構築することを目指し、宮城県をはじめ東北各県と連携してプログラムの広報、参加者の発掘・フォローアップ、各県でのセミナー・ワークショップ開催等を行なっている。

東北各都市との連携イベントの開催（2015～）

2015年より地方からグローバルスタートアップを輩出することを目指し、総務省、NICTと連携し、スタートアップ支援に積極的な自治体（主催：青森県、仙台市、滝沢市、八幡平市、郡山市、会津若松市など）とICTスタートアップに特化した**ピッチイベント「SPARK! TOHOKU」**を開催。地方から世界へ挑戦するスタートアップの発掘・育成を行なっている。

京都市・水俣市（2017～）

2017年に**ソーシャル・イノベーションの推進に係る連携協定**を締結し、社会起業家の相互支援、支援人材育成、企業や自治体に対する啓発イベントの開催等を行なっている（**ソーシャル・イノベーション・クラスター構想**）。

神戸市（2020～）

行政課題や地域課題をICTを活用して解決することを目指す事業を両市とも実施しており、連携を強化することで成功・失敗事例の共有、スタートアップの相互支援等を進めるため、2020年内に**ICTを活用した行政課題の解決に向けた共同プロジェクト**を実施予定（**Urban Innovation Japan構想**）。

東京都（2020～）

共存共栄を図るベンチャー育成事業にて連携予定。東京発ベンチャーの他地域への事業展開、各地域ベンチャーの東京のエコシステムを活用した事業加速の実現を目指すプログラム。

この他に個別イベントでの連携やイベントへの登壇等で様々な自治体と関係構築を行っている。



大胆な規制緩和と豊富な実証フィールドを組み合わせ、仙台・東北から世界を変えるソーシャル・イノベーションを

国家戦略特区（ソーシャル・イノベーション創生特区）

産業競争力強化のため、国が区域を限定して規制改革を推進する「国家戦略特区」。

仙台市は全国10区域の1つに選ばれており、さまざまな規制緩和の適用を受けることができる。仙台市では主に「社会起業」「女性活躍」「近未来技術実証」「医療」「公共空間利活用」の5分野で取り組みを進めている。



地方創生推進交付金

- 仙台・東北の地域経済を持続的に発展させるソーシャル・イノベーション創出事業

概要：革新的ビジョンと事業戦略を描き、プロジェクト遂行の強い意欲と覚悟を有する起業家を育成し、地方から社会課題解決型ビジネスを創出し、同様の課題を抱える国内外の地域への展開を支援する。（東北グロースアクセラレーター、東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーターなど）

- 仙台・東北の社会課題解決を先導するIT産業エコシステム構築事業

概要：IoT、クラウド、ビッグデータ、人工知能、5G等の先端IT技術を活用したビジネスの創出支援の事業を実施する。（ICTプロトタイプ実証支援、X-TECHイノベーション推進事業など）

スタートアップの多くが抱える「魔の川」「死の谷」「ダーウィンの海」を超えるための支援をマルチセクターの連携で整備

新商品特定随意契約制度（トライアル発注制度）

宮城県では、新商品特定随意契約制度（トライアル発注制度）を実施しており、県における調達の機会を増やすことにより、新商品等の販売実績作りと売上増を直接的に支援するとともに、社会的な認知度の向上を目指している。

LIFE-TECH INNOVATION SENDAI（プロトタイプ実証支援）

地域課題や行政課題に対して、ICTスタートアップが開発したプロトタイプに対して、市民や行政、企業などマルチセクターでブラッシュアップを行う共同実証事業を実施。ピッチコンテストで選抜されたスタートアップに対して、開発委託契約を締結し、PoCを支援。行政や地域の実証フィールドを提供し、実用化へ向けた支援を行う。

CareTech（健康福祉機器・サービス開発支援）

介護（Care）とIT（Technology）の融合をテーマに、IT事業者の介護分野への新事業展開を推進。介護現場の労働負担の軽減や生産性の向上、高齢者の自立につながるIT製品・サービスの開発を支援。
仙台市内の介護職者（約70名が登録）と連携し、貴社の製品・サービス開発についてアドバイスや実証フィールドを提供する体制を整備。

Japan-Finland Bosai Tech Open Innovation Challenge

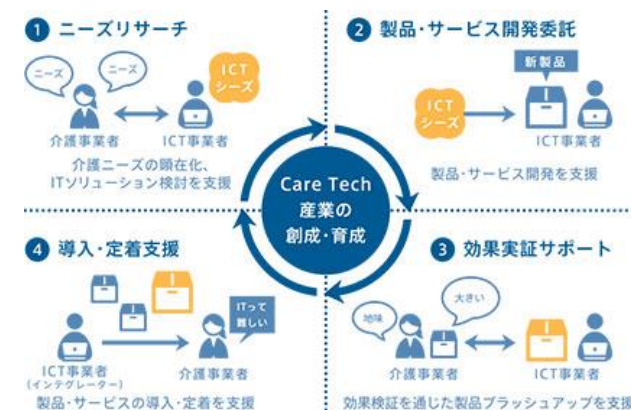
経済産業省と独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)が開催した「地域への対日直接投資カンファレンス (Regional Business Conference : RBC)」の一環として、フィンランドICT企業8社を本市に招聘し、本市沿岸部で実証実験を実施したノキア社のドローン・プライベートLTE通信網や先端ICT技術等を活用した防災課題解決のハッカソンを実施。防災・減災分野とICT技術の掛け合わせをテーマとしている。
最優秀となった企業には、仙台市から2万ユーロを提供され、実用化に向けたPoCを実施する。

BOSAI-TECHイノベーション創出プログラム

事業開発手法（デザインシンキングやCSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）等）を学ぶ講義やワークショップ、ビジネスモデル計画、採択企業へのサポート（各種メンタリング等）によりBOSAI-TECH製品・サービスの事業開発を支援する。

福島イノベーションコースト構想・福島ロボットテストフィールド

福島ロボットテストフィールドと東北大学、仙台市が連携し、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される無人航空機、災害対応ロボット、自動運転ロボット等の共同研究開発、実証試験、性能評価を実施し、社会実装を加速させる。



スタートアップ支援に関しては、調達環境や企業等とのオープンイノベーションへの影響が懸念されるが、新型コロナウイルス感染症によって明らかになった社会構造上の課題に対して、ICTや大学の研究シーズ・技術シーズを活用し、その課題解決に挑戦する起業家や中小企業のチャレンジを応援するための取り組みを集中的に実施する。

例：DXの推進（オンライン教育、遠隔診療、メンタルヘルス、コミュニケーションツール等）、近未来技術の実証等

グローバルスタートアップ創出・育成事業（東北グロースアクセラレーター）

東北6県を対象とした国内初の広域アクセラレーションプログラムとして2017年にスタート。ICTや大学の研究シーズ・技術シーズを活用し、地域や社会の課題を解決することを目指すスタートアップ企業、新規事業へチャレンジする中小企業を集中支援するプログラム。**2020年度は「With/Afterコロナの社会の変化」をテーマに顕在化した課題に挑むスタートアップを集中的に支援。**

先端テクノロジーを活用したSDGsスタートアップ創出プログラム（SDGsアクセラレーター）【新規】

未充足の社会課題に対し、大学の研究シーズ等革新的な技術を活用したビジネスプランの立ち上げを支援することで、SDGsの達成に資する国内外の課題解決を目指すビジネスを創出し、ユニコーンの輩出による地域経済活性化を目指す。

東北大学、東北大学ベンチャーパートナーズ等と連携し、新型コロナウイルス感染症によって生じた社会課題の解決に対して挑戦するアイデアの社会実装を支援。

課題解決ICTプロダクト実証支援（LIFE-TECH INNOVATION）

地域や社会の課題を解決するICTを活用した事業アイデアの具体化を支援するための支援プログラムとして2018年にスタート。アイデアをブラッシュアップするメンタリング、セミナー、フィールドテストを行う環境を提供。

2020年度は「Urban Innovation Japan」と連携し、行政課題の解決（新型コロナウイルス感染症を踏まえた業務及び事業遂行に関する民間企業等との連携・提案・アイデアを庁内照会中）、DX推進のために有効なアイデアを全国から募集し、社会実装に向けた支援を行う。

ソーシャル・イノベーター育成・支援（東北ソーシャル・イノベーションアクセラレーター）

課題先進地の東北で、社会起業に関する機運を醸成し、集中支援プログラムを通じて社会課題解決に資する社会起業家を輩出するとともに、仙台を中心として東北に社会起業家を連続的に輩出するエコシステムを構築することを目的に2017年にスタート。**地域や社会の課題に対して挑戦する社会起業家を支援する。**

X-TECHイノベーション推進事業（X-TECH INNOVATION Project）

仙台市をフィールドに、IoTやAI、VR/AR、5Gなどの先端技術と様々な産業との掛け合わせ（X-TECH）による新事業の創出やそれをリードする先端IT人材の育成・交流により、テクノロジーの力でイノベーションを生み出し、都市の体験をアップデートしていくことを目指すプロジェクト。**2020年度は「With/Afterコロナ時代の新しい生活」をテーマに募集予定。**

クロス・センダイ・ラボ

多様な課題の解決に向けて、民間企業等と仙台市とが連携し、それぞれの持つ資産を掛け合わせる（X[クロス]）ことで、より大きな価値を創造することを目指して試行錯誤していくラボ。**新型コロナウイルス感染症を踏まえた業務及び事業遂行に関する民間企業等との連携・提案・アイデアを庁内から抽出し、民間企業からの提案募集中。**



Tohoku Future Builders (MAKOTO、KDDI)

東北を拠点としながら、次のステージへ進む起業家に向けた成長支援プログラムです。成長意欲のある東北の起業家たちを集め、集合研修、E-Learning、ハンズオン支援などのサポートを実施。集合研修では経営者としての時間を確保し新しいステージの戦略を生み出す支援を、ハンズオン支援では参加した起業家の方々が確実に前身できるサポートを行う。



INTILAQ起業支援プログラム (IMPACT Foundation Japan)

INTILAQ東北イノベーションセンターのハード機能に加え、起業家精神の育成を目的としたハウスレクチャーシリーズや、グローバルコミュニケーション講座、起業講座、デザイン思考ワークショップ、事業計画・財務計画の作成、法的な助言、市場調査、広報活動、投資家へのPRなど、幅広いトピックをカバーするメンタリングサービスを提供。

産学官金との連携を行いながら、東北の強みや資源を活かした支援を展開



enspace (エンライズコーポレーション)

東北最大級のコワーキングスペース&シェアオフィス機能に加え、地域内外の様々なアクセラレーター等と連携しイベントやプログラムを実施。定期的開催されるenspaceビジネス交流会、ビジネスバンクグループと連携したプレジデントアカデミー、ゼロワンプースターと連携した事業創造プログラムなど多数。



EO North Japan Quantum Leap (EO North Japan)

世界的経営者コミュニティEOの東北支部が実施するアクセラレーションプログラム。総時価総額1兆円以上の創業社長の経験を活用し、経営者同士による経験のシェアと学びあいをベースに、様々なレクチャーとメンタリングにより成長を促す。東北6県を代表する企業経営者のピッチイベントも開催。

スタートアップ拠点の形成に向け連携協定を締結

東北大青葉山新キャンパスに建設される次世代型放射光施設との連携を見据え、施設を利用する企業向けのオフィスや寄宿舍を備えた複合ビルを整備。仙台市、NTT東日本、NTTアーバンソリューションズの3者の連携協定を締結し、「多様なイノベーション創出に向けた取り組み」、「次世代放射光施設の産業利用促進に向けた取り組み」、「スタートアップ拠点形成に向けた取り組み」、「新たな街の回遊促進に向けた取り組み」をテーマに都心部の更なる活性化に向けた、新たな魅力や賑わいの創出を図る。

仙台市
SENDAI CITY

放射光の産業利用促進策の検討など
(「トライアルユース事業」での連携、普及啓発の取り組みなど)

仙台市
SENDAI CITY

事業成長支援、育成プログラム支援、起業家イベントの開催



研究・開発拠点としてのノウハウ導入、繋がり共有
スタートアップ支援プログラムや運営手法の導入、繋がり共有

NTT仙台中央ビル



NTT東日本
NTTアーバンソリューションズ



仙台エコシステム動画



2020年5月13日協定締結式

東北経済連合会・東経連ビジネスセンター

- ・東経連BCの「100人を超える支援専門家」と「東北の産学官金の共創」による支援で ダーウィンの海を渡り、成長軌道に乗せる支援を展開中。
- ・支援事例の中には1年で売上高を倍増させる支援事例も多く生み出している。



TOKEIREN BUSINESS CENTER
東経連ビジネスセンター

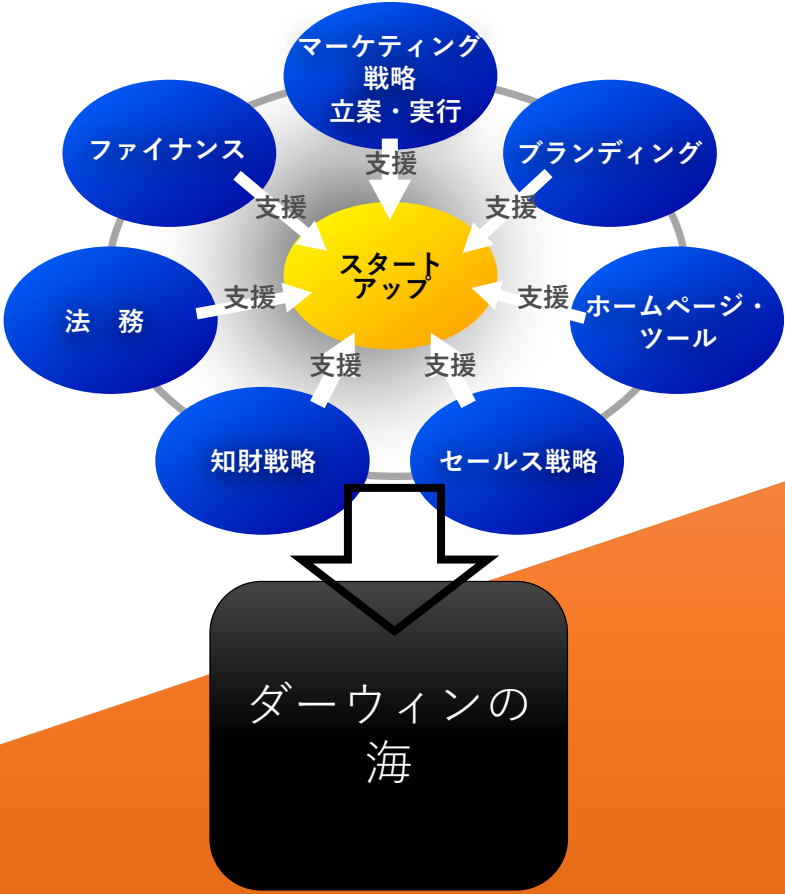
Innovation for Growth™



協定協定に関する調印式

東北大ベンチャーパートナーズとイノベーション・エコシステムの構築に向けた協力協定を締結

東北大発ベンチャーの成長を一層促し、東北地域をより付加価値が高く、自立的で強固な産業構造へ転換していくことを目指す。



株式公開
M&A

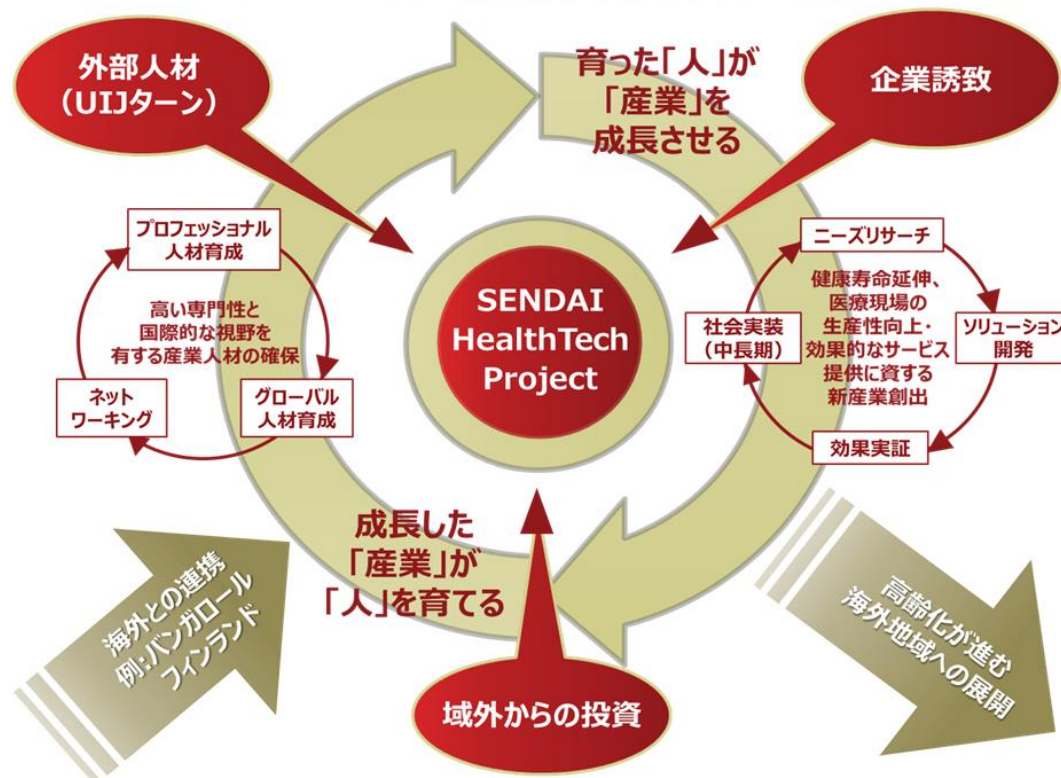
起業

グローバル企業との連携 (フィリップス)

オランダに本社を置き、口腔ケア等のヘルスケア事業において世界的に事業を展開しているフィリップスが、日本初の研究開発拠点 Philips Co-Creation Centerを2019年5月に仙台市内に開設。本市は、同社を事業パートナーとして、ヘルスケア領域の課題をITで解決することをテーマとした新たな取り組みであるHealthTech推進事業を開始。



HealthTech推進事業のスキーム図



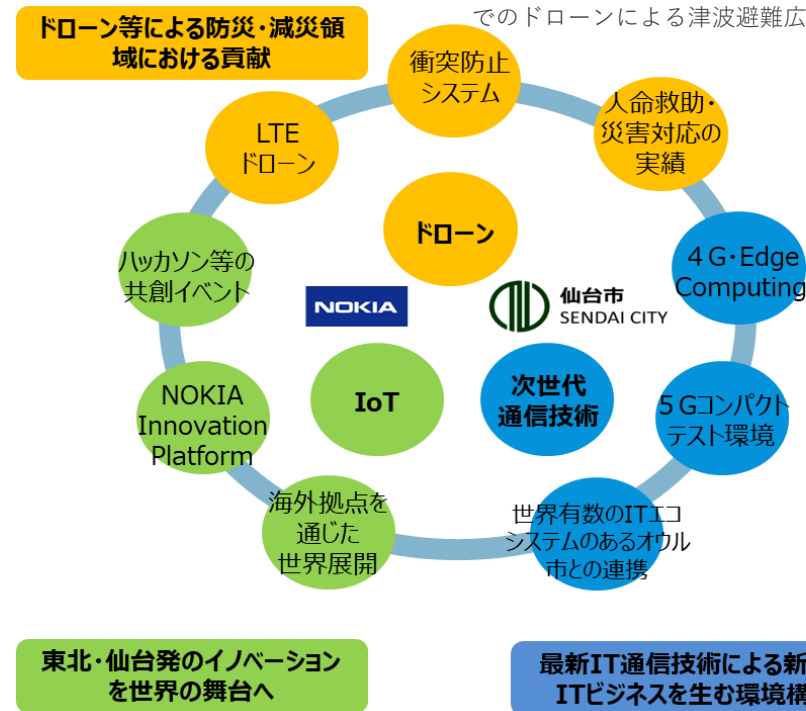
※東北大学病院 臨床研究推進センター、加齢医学研究所等との連携体制の構築を併せて実施する。

グローバル企業との連携 (NOKIA)

2003年から続く仙台・フィンランドの関係の発展形として、フィンランドを代表するグローバル企業NOKIAと連携協定を締結 (2017年10月) ドローン、IoT、次世代通信技術等を活用したまちづくりと、地域産業の活性化、国際化を推進



世界初となるプライベートLTE網上でのドローンによる津波避難広報



東北・仙台発のイノベーションを世界の舞台へ

最新IT通信技術による新たなITビジネスを生む環境構築

Ⅲ. 民間組織の取組 スタートアップを支援する地域の大企業・中堅企業の取組

起業支援プログラムの実施

- ・ **SENDAI ICT PITCH** (NTTドコモ、NTTドコモベンチャーズ、Global Lab SENDAI)

ICTサービスに特化したピッチコンテストを開催。東北から世界に挑戦するICTスタートアップを創出するため、最前線で活躍する投資家や企業経営者によるメンタリングの機会を提供。

<メンター企業>

- ・ NTTドコモベンチャーズ、東北大学ベンチャーパートナーズ、MAKOTO、七十七銀行、Klab ventures partners、Reapra ventures、Real tech fund

- ・ **Global Lab SENDAI** (NTTドコモ、東北のICT企業によるコンソーシアム)

グローバルラボ仙台コンソーシアム (GLS) は、オウル市 (フィンランド) との産業振興協定に基づき、2013年12月に発足した仙台・東北にIT・GAME産業を創出するための産学官プロジェクトで、地域のICT企業が中心となり、大学生や高専生に対して実践的な起業スキル、開発スキルをレクチャーする。



仙台的企業が直接学生を指導



ITとGAMEのコンテストを開催



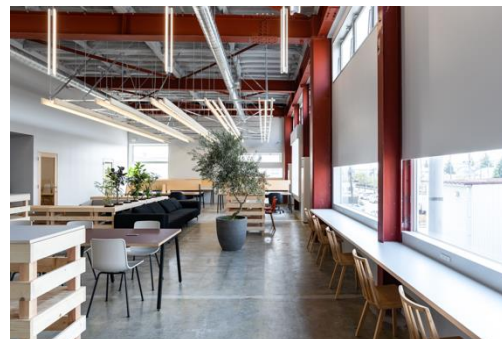
ハッカソンイベントを開催



起業家によるレクチャー

スタートアップ拠点の整備

- ・ NTT東日本新仙台中央ビル：スタートアップ拠点 (NTT東日本)
- ・ 仙台スマートイノベーションラボ：実証施設 (NTT東日本)
- ・ STUDIO080：スタートアップ拠点 (丸山運送)
- ・ THE6：スタートアップ拠点 (エコラ)
- ・ TRUNK：スタートアップ拠点 (仙台卸商団地協同組合)
- ・ cocolin：スタートアップ拠点 (東日本不動産、LASSIC)



課題先進地・東北を魅力と捉え、多様なキーパーソン・インフルエンサーが集結



株式会社MAKOTO
代表取締役 竹井 智宏 氏

仙台のベンチャーキャピタルに勤務していた際に東日本大震災を経験。2011年7月にMAKOTOを設立し、東北の起業家・経営者の支援を開始。日本初の再チャレンジ特化型ファンド「福活ファンド」を組成。また東北のスタートアップに投資する「ステージアップファンド」を組成し、投資育成活動を展開。起業環境作りにも力を入れ、JPモルガンと「Tohoku Rebuilders」など育成プログラムを実施。東北大学の起業家育成「東北大学スタートアップガレージ」にも取り組んでいる。



一般社団法人IMPACT
Foundation Japan
代表理事 竹川 隆司 氏

野村證券にて国内、海外（ロンドン）勤務等を経て、2011年より米国ニューヨークにAsahi Net International, Inc.を設立。その後活動拠点を日本へ戻し、カタールフレンド基金の支援を受け東北の創造的復興の実現のため起業家育成の拠点として「INTILAQ東北イノベーションセンター」を設立。2016年に株式会社zero to oneを設立し、AIを含めた高度IT分野の人材育成をオンライン中心に推進。



株式会社エンライズ
コーポレーション
代表取締役CEO 吾郷 克洋 氏

地元の大学を卒業後、東京のベンチャー企業に入社。その後、IT系ベンチャー企業の立ち上げに参画し、2012年にはITインフラサービスに特化した株式会社エンライズコーポレーションを設立。設立から約6年間で国内5カ所と米国シリコンバレーにもサテライトオフィスを設ける。より社会課題の解決に直結する場所でやりたい」という思いから、東北にコワーキングスペース&シェアオフィス「enspace」を開設。エンジニア人財の「採用」と「育成」に積極的に取組み、新規事業のチャレンジなど、人と事業の成長に力を注いでいる。



Sendai Development
Commission株式会社
代表取締役 本郷 紘一 氏

25歳で起業、美容室やネイルサロン、飲食店、イベント企画会社を経営。「A cup of coffee fills our city. 一杯のコーヒーが街を豊かにする」の理念を掲げ、移動式コーヒーショップSENDAI COFFEE STANDで仙台の街角をおしゃれに彩る。学生とともに定禅寺通りを中心としたマルシェイベント「GREEN LOOP SENDAI」で70,000名の集客。公共空間を活用した起業家支援の仕組み「スタートアップ・マルシェ」も実施。リアルアントレプレナーとしてAI/IoT学生スタートアップのメンターやサポートも行い、仙台らしい起業エコシステムの構築を目指す。

課題先進地・東北を魅力と捉え、多様なキーパーソン・インフルエンサーが集結



株式会社グリーディー
代表取締役 浜出 理加 氏

17年間ピーチ・ジョンで商品開発から売上管理、マーケティングまで幅広い業務と役割を担う。ワークライフバランスを強く意識するようになり、2017年2月退職。同年5月㈱グリーディーを設立。現在はホテルメトロポリタン仙台のアロマデザインをはじめ、香りを使った企業ブランディング中心に事業展開。女性の多様なキャリアをサポートしたいという思いから「**国際女性デー | HAPPY WOMAN FESTA MIYAGI**」を主催し2年間で1,000名の女性を動員。地方女性のキャリア形成における課題に取り組み、事業継続率や雇用率改善を目指し「**1mm Innovation**」プロジェクトを推進中。



株式会社Pallet
代表取締役 羽山 暁子 氏

ICU卒後、インテリジェンス新卒入社。営業の後、人事部配属。全国50,000人以上の学生と「はたらく」意味を考え問い続ける。(株)ブレインパッドでIPOを人事マネージャーとしてサポート後、パートナーの希望で知り合いの1人もいない仙台にIターン。女性の新しい働き方を実験しようと、フリーで活動。アドラー心理学に基づくコーチングコミュニケーションを元に、**エグゼクティブコーチ、組織のコミュニケーションデザイン、大学高校生のキャリアサポート**と共に、ハタモク仙台、SENDAI HR Lab.を立上げ、年齢立場を超えた横の関係で、より良く生きはたらくことを考え実現する場を主催。2018年㈱Pallet設立。



エイチタス株式会社
代表取締役 原 亮 氏

1974年生まれ。法政大学法学部政治学科卒。編集者・ライターを経てモバイル業界に転身。営業、ディレクター、取締役等を歴任したのち、2009年、地元行政、企業と「**みやぎモバイルビジネス研究会**」を立ち上げ。ITベンチャーでの経験を活かしながら、地域で自走する人や組織、社会を作るための活動を展開。「**Global Lab SENDAI**」代表幹事。2016年エイチタス株式会社を設立。企業、自治体などあらゆる組織、テーマでの価値の探索のサポートを展開している。**共創による地域課題解決ICTプロダクト創出プロジェクト、Wellbeingリビングラボ**を実施。



株式会社Zoom Zoom English
代表取締役 ジェイソン ルイス 氏

米陸軍の民事担当官として、新興市場の開発支援に従事。イラク、アフガニスタン、アフリカなどの地域住民の生活安定化を促進。その後ハワイを拠点に実業家として10年間様々な事業の立ち上げを行い、シリアルアントレプレナーとして活動。数年前に観光で来日した際、仙台の魅力に触れるとともに、ビジネスチャンスを見出し、仙台での起業を決意。現在は英会話教室「Zoom Zoom English」と外国人に対して**仙台や東北の魅力や起業環境を発信する活動「KIMIRA HOUSE**」を行い、**外国人向け起業促進プロジェクト「IGNITE SENDAI STARTUPS**」を推進している。

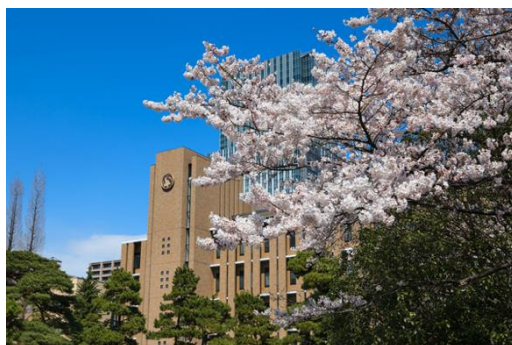
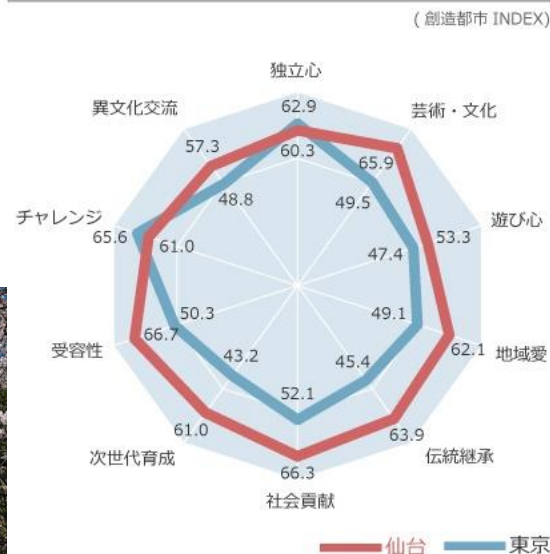
人材の宝庫 学都・仙台

「学都」の名にふさわしく、仙台都市圏には多くの高等教育機関があり、毎年優秀な人材が輩出されています。仙台都市圏の高等教育機関は100以上存在し、学生数は75,000人以上。特に理工系の大学・専門学校は数が多く、最先端の技術を学んだ学生が多くいます。108万人の仙台市民のうち、20～30歳代の人口は27万人を超えており、人口に占める割合も27%以上と、他の主要都市と比べてもとても高い数値となっています。

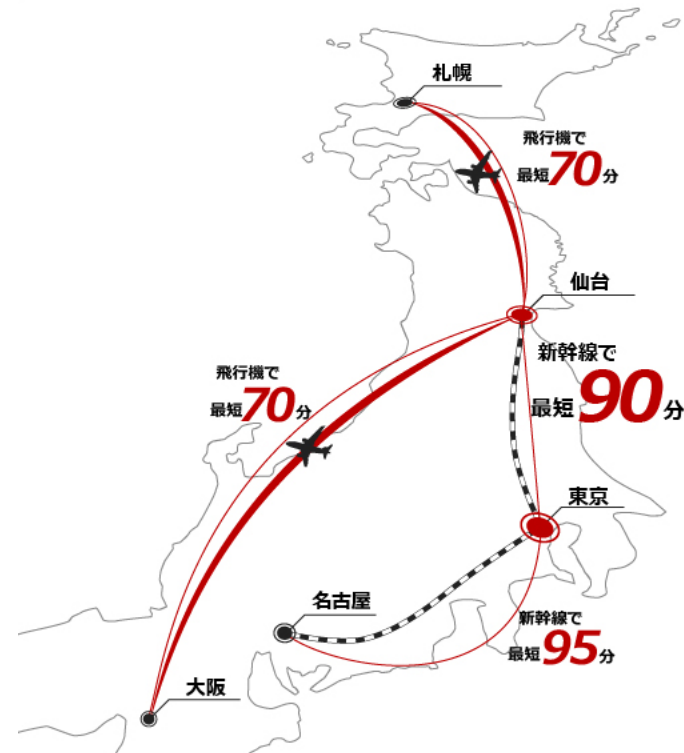
仙台都市圏の高等教育機関等の学生数



仙台市民の創造力（仙台と東京の比較）



東京や国内主要都市との良好なアクセス



首都圏からの抜群のアクセス

国際的なスタートアップ拠点としての発展を実現するためには、世界中からアクセスし易い立地であることが重要です。成田、羽田、中部、関西といった日本の国際空港のうち、国際便数で圧倒的シェアを占めるのは成田空港、羽田空港で、特に欧米路線の殆どがこれらの空港を発着場所としています。仙台駅は、日本の主要幹線の起点である東京駅と結ばれ、東北新幹線は、仙台-東京間を最短90分で結び、日帰りビジネスも快適な環境にあります。上記2空港を含む首都圏・近郊市街地や、国内主要都市とのアクセス性が極めて高い都市です。

災害に強いまち 防災環境都市・仙台

仙台市は非常に強い地盤の上に市街地が形成されており、地震に強い街であり、あれほど大きな揺れだったにもかかわらず、東日本大震災により倒壊してしまったビルは一つもありませんでした。また、宮城県沖地震での教訓から地震対策がなされていたことで被害は少なく、電気・水道などのインフラの復旧も早く進みました。

今後の起業活動には、BCP（Business Continuity Planning）の観点が欠かせません。残念ながら、日本国内では地震を含む災害から完全に逃れることはできませんが、仙台市はリスク分散の拠点として有力な候補となりえます。また、東日本大震災前から進めてきた防災の取組みと、震災の教訓を踏まえた復興まちづくりにおいて「市民協働による取組み」と「市民力」が評価され、平成24年10月、世界で35都市目の防災の模範となる「ロール・モデル都市」として国連から認定を受けました。



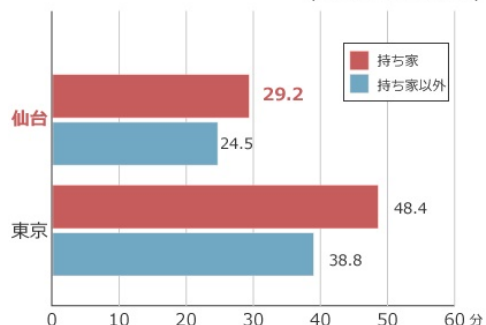
住み良いまち 杜の都・仙台

仙台市は東北地方の街としては過ごしやすい気候です。夏でも最高気温が35℃以上の猛暑日はほとんどなく、また、冬も晴れの日が多く真冬日となることは稀です。気象庁の統計では、真夏日と真冬日の年間平均日数の合計は、国内の主要都市と比較しても非常に少なく、寒暖の差が少ない穏やかな気候であることを示しています。積雪も年に数センチが数回程度、どんなに積もっても20センチ程度と、東北地方としては非常に少ないです。

また、仙台のビジネスパーソンの平均通勤時間は東京の6割程度との結果が出ています。首都圏の通勤電車のような際立った混雑もなく、速くて快適な通勤ができます。通勤時間が減るということは、同じ時間働くとすれば、より豊かな余暇を過ごすことができるとも言えます。

平均通勤時間は東京の6割程度

(H25 住宅・土地統計調査)



※地下鉄東西線の開業でさらに短くなることが期待できる

オフも充実するまち

仙台は山や海でのレジャーも非常に身近です。市内のほとんどの場所から30分～1時間でどちらにも行くことができます。夏は登山や海水浴、サーフィン、冬はスキーやスノーボード、温泉など、思い立ったらすぐに行ける環境が整っています。食も豊かで、世界三大漁場の一つである三陸沖で獲れる新鮮な魚介類、食材王国と言われる宮城県や東北各地の名産品を身近に楽しむことができます。

また、市民参加型のイベントが多いことも仙台の特徴と言えます。有名な七夕祭りを始めとして、仙台・青葉まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバル、光のページェントなど市民参加も可能なイベントが年間を通じてたくさんあり、市民を楽しませています。

プロスポーツも盛んです。東北楽天ゴールデンイーグルス、ベガルタ仙台、仙台89ersを始めとしたプロスポーツのホームゲームを身近で観戦することができ、いずれも地域密着型のチームとして市民にも広く愛されています。





仙台市起業支援センター“アシ☆スタ”

運営：公益財団法人仙台市産業振興事業団
起業支援に関する専門家が常駐し、
様々な相談にワンストップで対応
（仙台駅徒歩2分）



INTILAQ東北イノベーションセンター

運営：一般社団法人IMPACT Foundation Japan
スタートアップ、社会起業家にコワーキングスペース
やレジデンスブース、オフィススペース、メンタリン
グサービスを提供
（地下鉄東西線卸町駅徒歩5分）



enspace

運営：株式会社エンライズコーポレーション
東北最大級のコワーキングスペースで、会員間
の交流を促すイベントやセミナー等を定期的に
開催
（地下鉄東西線青葉通一番町駅徒歩6分）

仙台駅から半径5km圏内に主要なスタートアップ支援施設が集積し、 地下鉄等公共交通アクセスも抜群



コワーキングスペースcocolin

運営：株式会社LASSIC
コミュニティ形成を重視し、多様な起業家が集
うコワーキングスペース&レンタルオフィス
（地下鉄南北線五橋駅徒歩1分）



東北大学連携ビジネスインキュベータ（T-Biz）

運営：独立行政法人中小企業基盤整備機構
大学等の研究シーズを活用し、チャレンジする起業
家にオフィススペース・研究スペースを提供
（地下鉄東西線青葉山駅徒歩2分）



NTT東日本仙台中央ビル（建設中）

運営：東日本電信電話株式会社
次世代放射光施設と連携しスタートアップ輩出
の中核となる拠点（コワーキングスペース&ラ
ボ&イベントスペース）
（仙台駅徒歩7分）

- ・ アシ☆スタ交流サロン
- ・ enspace
- ・ INTILAQ東北イノベーションセンター
- ・ TAGE community
- ・ STUDIO080
- ・ THE6
- ・ TRUNK CREATIVE OFFICE SHARING
- ・ ビジネスデザインセンター
- ・ Incubation Center FLIGHT
- ・ cocolin
- ・ 東北大学スタートアップガレージ
- ・ 東北大学メディシナルハブ
- ・ SENDAI COFFEE STAND
- ・ Food&Karaoke DUNK
- ・ NTT東日本仙台五橋ビル 他



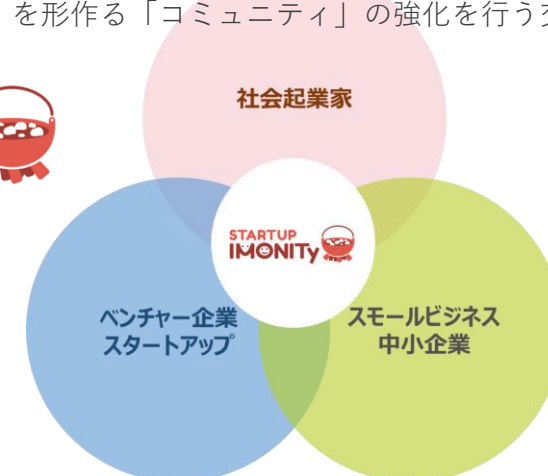
東日本大震災以降の起業機運の高まりに合わせ、コワーキングスペース等が増加 起業家コミュニティをつなぐイベントも多数開催



東北の文化である「芋煮会」と「コミュニティ」を合成した造語として「**STARTUP IMONITY**（イモニティ）」を創り、様々な施設やプログラムと連携し、「エコシステム」を形作る「コミュニティ」の強化を行う交流イベントを月に1回程度開催。



サマリー動画





SENDAI for Startups! 主催者：仙台市他

場所：仙台国際センター 参加人数：約1,000名

概要：地方最大規模の起業イベントを毎年2月に開催。起業家育成プログラムに参加した起業家のピッチや、全国の著名経営者の講演などが開かれる。参加する起業家たちはイベントに集まる全国の大手企業や投資家らとのネットワーキングができ、事業提携や資金調達の機会に生かすことができる。



サマリー動画

SENDAI Entrepreneur Week 主催者：仙台市他

場所：仙台市内各所 参加人数：約3,500名

概要：地域内外の支援機関等と連携し、仙台市内で様々な起業に関するイベントを多発的に開催。多様な起業のあり方を発信するとともに、地域を挙げて起業家を応援する雰囲気醸成。

地方最大規模の起業イベント「SENDAI for Startups!」を中心に 年間を通じて多数のイベントを開催し、ステージに応じたサポートを実施



IGNITE SENDAI CONFERENCE 主催者：仙台市、KIMIRA HOUSE他

場所：INTILAQ東北イノベーションセンター 参加人数：約70名

概要：仙台における外国人の起業をさらに加速させるため、様々な支援施策やロールモデルとなる外国人起業家によるトークセッションを実施し、仙台の起業環境のPRと支援者とのマッチングを促進（全て英語で実施）。



Polar Bear Pitching in Sendai 主催者：仙台市、MAKOTO他

場所：青葉の風テラス 参加人数：約70名

概要：産業振興協定を締結しているフィンランド共和国オウル市で開催される氷の湖でのピッチ「Polar Bear Pitching」への出場をかけた、東北の若手起業家のピッチを開催。グローバル展開を目指す起業家に対して海外の投資家とのマッチング機会を提供。



平井ピッチの開催

2019年8月19日 平井大臣に仙台へお越しいただき東北大学「知の館」にてHIRAI Pitchを開催。
東北を代表する起業家8名からのプレゼンテーション、支援者6名からのピッチののち、「東北スタートアップによる復興からの飛躍」をテーマに、震災後の8年間の東北のスタートアップ環境の変化、地域経済界のスタートアップに対する支援状況、東北地方のポテンシャルなどについて車座でディスカッションを行った。

【東北の起業家8名】

- ・株式会社マテリアル・コンセプト 代表取締役 小池 美穂 氏
- ・ボールウェーブ株式会社 代表取締役社長 赤尾 慎吾 氏
- ・セルスペクト株式会社 代表取締役兼CEO 岩渕 拓也 氏
- ・株式会社Adansons 代表 石井 晴揮 氏
- ・株式会社ispace Director & Technology Advisor 吉田 和哉 氏
- ・株式会社ワンテブル 代表取締役 島田 昌幸 氏
- ・株式会社ポケットマルシェ 代表取締役CEO 高橋 博之 氏
- ・株式会社MAKOTO 代表取締役 竹井 智宏 氏

【東北の支援者6名】

- ・一般社団法人IMPACT Foundation Japan 代表理事
- ・株式会社 zero to one 代表取締役CEO 竹川 隆司 氏
- ・一般社団法人EO North Japan 会長 清水 龍在 氏
- ・株式会社七十七銀行 地域開発部長 茂田井 健太郎 氏
- ・仙台経済同友会 起業支援委員長 今野印刷株式会社 代表取締役 橋浦 隆一 氏
- ・仙台市経済局産業政策部産業振興課 起業・創業支援担当主任 白川 裕也 氏
- ・東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社 取締役投資部長 樋口 哲郎 氏



平井卓也（ひらいたくや）さんは東北大学片平キャンパスにいます。
2019年8月19日 17:25 ・仙台市・

「HIRAI Pitch in 仙台」を東北大学「知の館」にて開催。東北大学発スタートアップをはじめ、東北を拠点に活動しているスタートアップ企業、現地の支援者等に集結頂きました。材料系のテックスタートアップなど東北地域はスタートアップのポテンシャルは高いです。ここ数年間で熱量が上がってきましたね。東北のスタートアップ・エコシステムをどうブーストするか、世界レベルに引き上げるにはどうすべきか、議論しました。ありがとうございました！

#平井卓也 #自民党 #仙台 #東北大学 #平井ピッチ #HIRAI Pitch #startup #スタートアップ

